

## 中学・高校における社会認識調査

筑波大学附属駒場中・高等学校 社会科

岡本 忠篤, 小澤 正晴  
城戸 一夫, 坂根 義久  
澤登 岩尾, 神藤 邦芳  
林 幹一郎

1. 調査のねらい
2. 設問と回答の集計
3. 分析と考察
4. まとめ

#### 1. 調査のねらい

昨年の第1年度の調査のねらいは、「社会認識」が学年進行にともなってどのように変化するかを調べることにあり、57年度以降の「現代社会」の導入にあたって、中・高一貫教育のための基礎データを得ることにあった。この予備調査の結果、学年進行にともなう有意的変化が明白にはでてこなかったが、いくつかの問題点が浮かび上がった。この問題点を追求することによって、第1年度のねらいの実現を促進することが、本年度の調査のねらいである。

なお、問題点とは、列挙すればつぎのようなことである。

- 上・下級学年による有意的変化がみられなかったのはなぜか。問題に原因があるのか、生徒の側にあるのか。
- 「日本は平和である」と「構造的暴力」との回答矛盾はなぜでてくるのか。
- 実践的態度の欠除は駒場生だけの特徴か。なぜ、その傾向が強いのか。実践的態度を育てる条件（教材、授業方法、生活指導面）はなにか。
- 社会の問題点だけを教えて、解決のための運動（労働運動・平和運動・マスコミ運動・消費者運動・公害反対運動）を十分に教えていないのではないか。
- 雑誌・新聞を社会認識の主なる情報源としてもつ駒場生にたいして、それをどう活用するか。
- 地理で、上級学年ほど社会的背景より統計の技術的側面を重視する理由はなにか。
- 公民で政治不信とみたものは、権力にたいする不信か、民主主義にたいしてか、政治勢力にたいしてか。
- 歴史分野に固有の社会認識力を問う問題が少ない。
- 憲法の平和条項に「どちらともいえず」者が目立つ。改憲の意志の有無を調べる。
- 「社会通念にしばられない」を社会認識の深まりとみてよいのか。
- 社会改革運動型のタテマエ回答が多いことについて、追跡調査やホンネ調査をすること。
- 公民的分野の仮説にそいすぎた回答傾向に問題はないか。

## 2. 設問と回答の集計

〔1〕 本校では高3の増加単位以外の社会科各科目は必修になっていますが、あなたにとって社会科を学習する最も大きな目的は何ですか。あなたの考えに最も近いものを次の中から一つ選んで下さい。

- a. 受験のため
- b. 教養を深めるため
- c. 広い視野にたつて、社会と人間についての理解と認識を深めるため
- d. 理解と認識を深めるだけでなく、より民主的、平和的な社会をつかっていくための考え方や態度を身につけるため

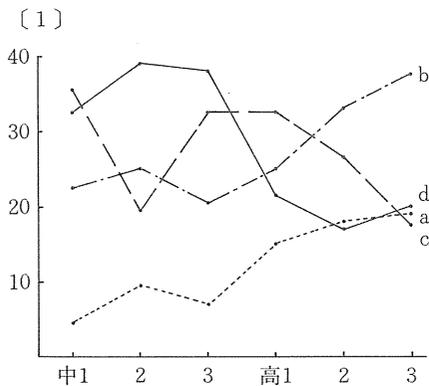
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	5	11	8	24	25	24
b	27	29	25	40	48	47
c	42	23	39	52	38	22
d	39	46	46	35	24	25
x	5	4	1	12	7	2
y	1	5	2	0	2	5

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	4.2	9.3	6.6	14.8	17.4	19.2
b	22.7	24.6	20.7	24.7	33.3	37.6
c	35.3	19.5	32.2	32.1	26.4	17.6
d	32.8	39.0	38.0	21.6	16.7	20.0
x	4.2	3.4	0.8	7.4	4.9	1.6
y	0.8	4.2	1.7	—	1.4	4.0

〔注〕 xは「その他」、yは「答えられない」・「わからない」(以下すべて同じ)



〔2〕 本校に入ってからうけた社会科教育は、第1問で選んだあなたの目的にどの程度か  
 ていますか。次の中から一つ選んで下さい。

- a. 全体としてほぼ達成されている。
- b. 部分的に（一部の分野や科目、又は内容によっては）ほぼ達成されている。
- c. 全体としてほとんど達成されていない。

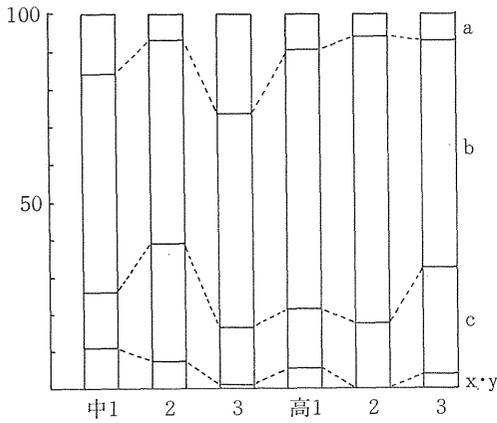
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	19	8	32	15	9	9
b	69	64	69	112	110	74
c	18	37	19	26	25	35
x	3	1	0	5	0	1
y	10	6	1	4	0	4

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	16.0	6.8	26.4	9.3	6.3	7.2
b	58.0	54.2	57.0	69.1	76.4	59.2
c	15.1	31.4	15.7	16.0	17.4	28.0
x	2.5	0.8	—	3.1	—	0.8
y	8.4	5.1	0.8	2.5	—	3.2

〔2〕



〔1〕\〔2〕

中1

	a	b	c	x	y	
a	3	1			1	5
b	8	14	4	1		27
c	5	26	6		5	42
d	3	26	8		2	39
x		2		1	2	5
y				1		1
	19	69	18	3	10	119

〔1〕\〔2〕

高1

	a	b	c	x	y	
a	1	12	8		3	24
b	8	27	3	1	1	40
c	2	39	11			52
d	2	31	2			35
x	2	3	3	4		12
y						0
	15	112	27	5	4	163

中 2

	a	b	c	x	y	
a	1	5	4		1	11
b	5	17	7			29
c		16	6			22
d	1	26	17		1	45
x	1		1	1	1	4
y			2		3	5
	8	64	37	1	6	116

中 3

	a	b	c	x	y	
a	2	6				8
b	7	12	6			25
c	13	22	4			39
d	9	28	9			46
x		1				1
y	1				1	2
	32	69	19		1	121

$\{1\} \setminus \{3\}$

中 1

	a	b	c	d	x	y	
a	3		1	2			6
b	8	1		17	1	1	28
c	2	3		31	5	1	42
d	7	3	1	21	6	3	41
x		1		3	1		5
y		1					1
	20	9	2	74	13	5	123

中 2

	a	b	c	d	x	y	
a	1		2	7		1	11
b	4	5	1	19	1		30
c	2		1	19	1		23
d	2	5		38		1	46
x	1		1	1		1	4
y					3	2	5
	10	10	5	84	5	5	119

中 3

	a	b	c	d	x	y	
a	2	2	1	4			9
b	9	3		13	1		26
c	18	5	1	14		1	39
d	9	5	2	31	1	2	50
x					1		1
y	1					1	2
	39	15	4	62	3	4	127

高 2

	a	b	c	x	y	
a	1	17	7			25
b	4	38	6			48
c	2	34	2			38
d	2	16	6			24
x		5	2			7
y		1	1			2
	9	111	24	0	0	144

高 3

	a	b	c	x	y	
a		11	13			24
b	4	33	10			47
c		15	6			21
d	4	14	6			24
x	1			1		2
y		1			4	5
	9	74	35	1	4	123

$\{1\} \setminus \{3\}$

高 1

	a	b	c	d	x	y	
a	5	2	1	13	2	1	24
b	9	5	3	20	3	1	41
c	11	4	4	32	2	3	56
d	2	8	1	21	5		37
x	1	3		5	4		13
y							0
	28	22	9	91	16	5	171

高 2

	a	b	c	d	x	y	
a	2	4	2	15		2	25
b	6	6	2	30	6	1	51
c	4	1		28	4	1	38
d	3	6	1	16			26
x		1		6	1		8
y			1		1		2
	15	18	6	95	12	4	150

高 3

	a	b	c	d	x	y	
a	2	2	1	18	1	1	25
b	8	4		33	2	1	48
c	1	1	1	19	1		23
d	3	2	1	15	3		24
x		1		1			2
y				2		3	5
	14	10	3	88	7	5	127

〔3〕 本校の社会科教育は、〔1〕で選んだ目的を達成するために、今後どのようにしたらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを次の中から選んで下さい（二つ以上答えて結構です）。

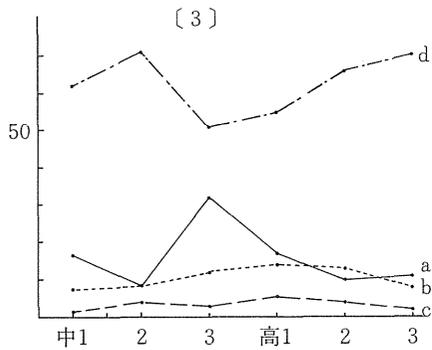
- a. 全体としてほぼ達成されているから現状のままでよい。
- b. 他の教科や科目と関連させながら、内容をもっと減らした方がよい。
- c. 程度をもっと下げるべきである。
- d. 教材や内容・教育技術をもっと工夫してほしい。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	20	10	39	28	15	14
b	9	10	15	22	18	10
c	2	5	4	9	6	3
d	74	84	62	90	95	88
x	13	5	3	16	12	7
y	5	5	4	5	4	5

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	16.8	8.5	32.2	17.3	10.4	11.2
b	7.6	8.5	12.4	13.6	12.5	8.0
c	1.7	4.2	3.3	5.6	4.2	2.4
d	62.2	71.2	51.2	55.6	66.0	70.4
x	10.9	4.2	2.5	9.9	8.3	5.6
y	4.2	4.2	3.3	3.1	2.8	4.0



[4] いまあなたにとって大切なものは何でしょうか。次の中から、三つまで選んで下さい。

- a. 学校 b. 教師 c. 家族 d. 友人 e. いのち f. 平等 g. 自由 h. 平和  
i. 健康 j. 愛 k. 信仰 l. お金 m. 自然 n. なし

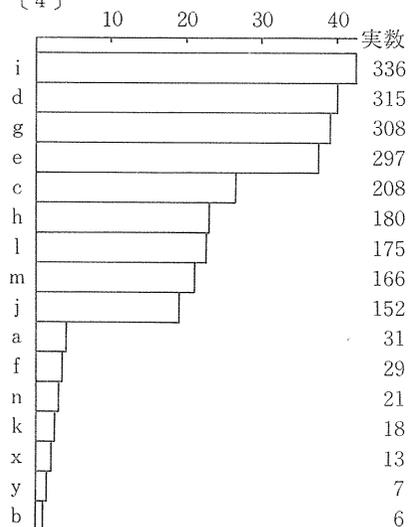
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	5	6	4	6	8	2
b	1	1	0	2	1	1
c	44	30	39	35	34	26
d	40	43	48	85	57	42
e	55	51	35	60	47	49
f	4	6	4	4	6	5
g	44	40	49	62	62	51
h	33	33	32	26	26	30
i	52	39	57	75	60	53
j	11	19	22	44	35	21
k	2	1	2	2	3	8
l	29	40	28	25	34	19
m	27	26	25	39	24	25
n	7	2	2	1	3	6
x	3	2	0	2	2	4
y	2	0	0	3	0	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	4.2	5.1	3.3	3.7	5.6	1.6
b	0.8	0.8	—	1.2	0.7	0.8
c	37.0	25.4	32.2	21.6	23.6	20.8
d	33.6	36.4	39.7	52.5	39.6	33.6
e	46.2	43.2	28.9	37.0	32.6	39.2
f	3.4	5.1	3.3	2.5	4.2	4.0
g	37.0	33.9	40.5	38.3	43.1	40.8
h	27.7	28.0	26.4	16.0	18.1	24.0
i	43.7	33.1	47.1	46.3	41.7	42.4
j	9.2	16.1	18.2	27.2	24.3	16.8
k	1.7	0.8	1.7	1.2	2.1	6.4
l	24.4	33.9	23.1	15.4	23.6	15.2
m	22.7	22.0	20.7	24.1	16.7	20.0
n	5.9	1.7	1.7	0.6	2.1	4.8
x	2.5	1.7	—	1.2	1.4	3.2
y	1.7	—	—	1.9	—	1.6

[4]



〔5〕 あなたは現在の生活の中で何に情熱を注いでいますか。次の中から三つまで選んで下さい。

- a. 学校生活 b. 塾・予備校 c. 趣味・娯楽 d. スポーツ e. 学生・市民運動・奉仕活動 f. 研究活動 g. 友人との交際 h. 信仰・精神修養 i. なし

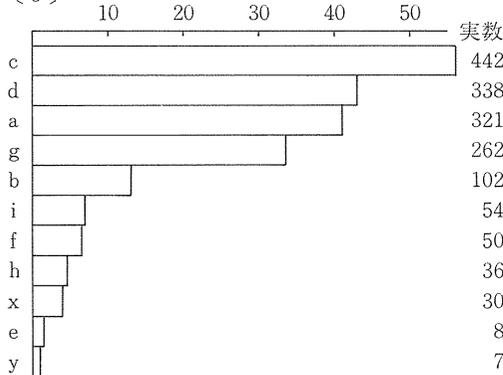
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	53	46	65	68	48	41
b	8	14	11	20	23	26
c	74	66	80	92	93	37
d	70	65	52	69	52	30
e	0	3	0	2	2	1
f	4	7	11	10	15	3
g	40	37	40	63	51	31
h	1	4	3	11	7	10
i	5	7	7	6	7	22
x	6	2	1	5	8	8
y	2	1	0	1	0	3

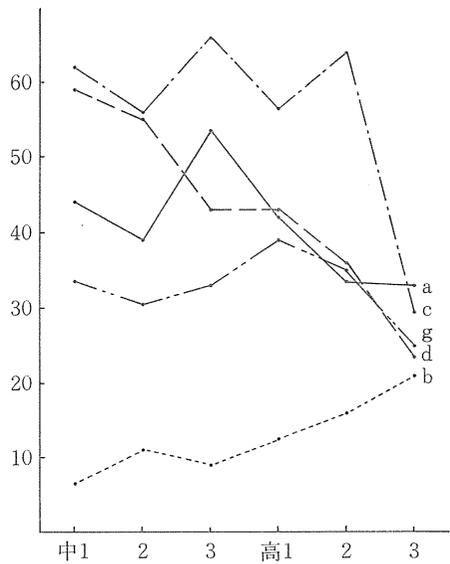
(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	44.5	39.0	53.7	42.0	33.3	32.8
b	6.7	11.9	9.1	12.3	16.0	20.8
c	62.2	55.9	66.1	56.8	64.6	29.6
d	58.8	55.1	43.0	42.6	36.1	24.0
e	—	2.5	—	1.2	1.4	0.8
f	3.4	5.9	9.1	6.2	10.4	2.4
g	33.6	31.4	33.1	38.9	35.4	24.8
h	0.8	3.4	2.5	6.8	4.9	8.0
i	4.2	5.9	5.8	3.7	4.9	17.6
x	5.0	1.7	0.8	3.1	5.6	6.4
y	1.7	0.8	—	0.6	—	2.4

〔5〕



〔5〕



〔6〕 あなたは現在どのような生き方をしていますか。次の中から、一つ選んで下さい。

- a. 世間の目を気にせず、自分のやりたいことを楽しむ。
- b. 現状に甘んじ、与えられた範囲で、自分の生活を楽しむ。
- c. 世の中のことはなりゆきに従って、その日を平穩に過ごす。
- d. よりよい社会の実現を目ざして、積極的に努力する。
- e. いまの社会を大切にし、それを守ることに努める。
- f. 社会とのかかわりをなるべく避け、ひたすら修業にはげむ。

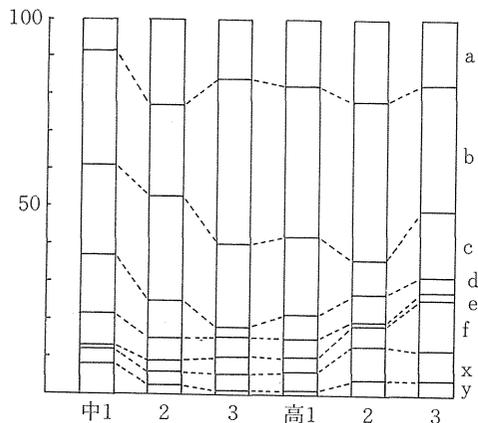
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	10	27	19	29	32	22
b	36	29	53	65	60	42
c	29	32	27	33	13	22
d	18	12	3	11	11	5
e	10	7	7	8	1	2
f	1	4	5	6	8	17
x	5	4	5	8	13	10
y	10	3	1	2	5	4

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	8.4	22.9	15.7	17.9	22.2	17.6
b	30.3	24.6	43.8	40.1	41.7	33.6
c	24.4	27.1	22.3	20.4	9.0	17.6
d	15.1	10.2	2.5	6.8	7.6	4.0
e	8.4	5.9	5.8	4.9	0.7	1.6
f	0.8	3.4	4.1	3.7	5.6	13.6
x	4.2	3.4	4.1	4.9	9.0	8.0
y	8.4	2.5	0.8	1.2	3.5	3.2

〔6〕



〔7〕 それでは、あなたは将来どのような生き方をしようと思いますか。前問の選択肢の中から一つ選んで下さい。

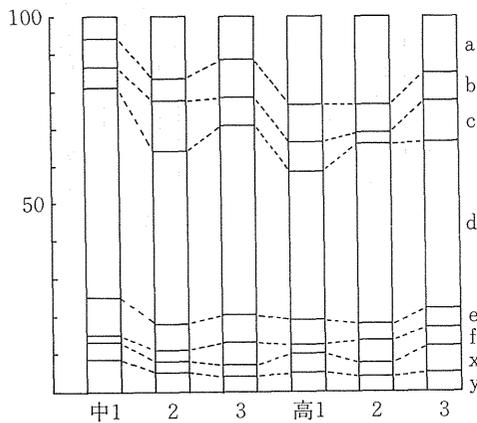
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	7	18	14	38	34	19
b	9	8	12	16	11	9
c	7	16	9	13	4	12
d	66	54	61	64	69	56
e	12	8	9	10	6	6
f	2	4	7	4	9	6
x	5	4	3	8	6	9
y	10	6	4	8	6	6

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	5.9	15.3	11.6	23.5	23.6	15.2
b	7.6	6.8	9.9	9.9	7.6	7.2
c	5.9	13.6	7.4	8.0	2.8	9.6
d	55.5	45.8	50.4	39.5	47.9	44.8
e	10.1	6.8	7.4	6.2	4.2	4.8
f	1.7	3.4	5.8	2.5	6.3	4.8
x	4.2	3.4	2.5	4.9	4.2	7.2
y	8.4	5.1	3.3	4.9	4.2	4.8

〔7〕



〔8〕 今日の日本が解決を迫られている重要な課題は何でしょうか。次の中から三つまで選んで下さい。

- a. 貧富の差    b. 社会福祉問題    c. 医療問題    d. 巨大企業    e. 労資の対立
- f. 他国との協調    g. 経済不況    h. 安保・軍備・防衛問題    i. 食糧問題
- j. 人口問題    k. エネルギー・資源問題    l. 公害・環境破壊問題    m. 土地・住宅問題
- n. 交通問題    o. 選挙制度    p. 汚職    q. 青少年の非行問題    r. 受験戦争
- s. 人権侵害

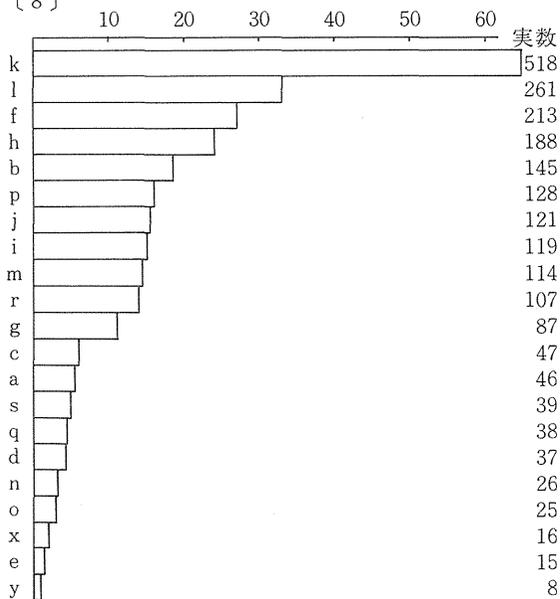
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	8	8	8	11	5	6
b	31	27	22	19	20	26
c	4	8	6	12	6	11
d	2	1	10	9	7	8
e	1	2	4	4	0	4
f	33	31	29	43	43	34
g	20	16	8	20	12	11
h	14	26	30	43	38	37
i	11	16	16	23	30	23
j	18	23	16	21	28	15
k	82	72	85	111	98	70
l	53	32	51	50	39	36
m	16	12	17	28	22	19
n	3	10	1	7	4	1
o	1	2	3	8	5	6
p	26	27	13	22	18	22
q	4	6	5	11	5	7
r	17	19	26	24	15	6
s	6	2	4	8	8	11
x	4	1	0	3	5	3
y	1	1	0	2	2	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	6.7	6.8	6.6	6.8	3.5	4.8
b	26.1	22.9	18.2	11.7	13.9	20.8
c	3.4	6.8	5.0	7.4	4.2	8.8
d	1.7	0.8	8.3	5.6	4.9	6.4
e	0.8	1.7	3.3	2.5	—	3.2
f	27.7	26.3	24.0	26.5	29.9	27.2
g	16.8	13.6	6.6	12.3	8.3	8.8
h	11.8	22.0	24.8	26.5	26.4	29.6
i	9.2	13.6	13.2	14.2	20.8	18.4
j	15.1	19.5	13.2	13.0	19.4	12.0
k	68.9	61.0	70.2	68.5	68.1	56.0
l	44.5	27.1	42.1	30.9	27.1	28.8
m	13.4	10.2	14.0	17.3	15.3	15.2
n	2.5	8.5	0.8	4.3	2.8	0.8
o	0.8	1.7	2.5	4.9	3.5	4.8
p	21.8	22.9	10.7	13.6	12.5	17.6
q	3.4	5.1	4.1	6.8	3.5	5.6
r	14.3	16.1	21.5	14.8	10.4	4.8
s	5.0	1.7	3.3	4.9	5.6	8.8
x	3.4	0.8	—	1.9	3.5	2.4
y	0.8	0.8	—	1.2	1.4	0.8

{ 8 }



{7}\{8}

中1

	a	b	c	d	e	f	x	y	
a	1			6	1	1	1		10
b	1	6	2	21	3		1	2	36
c	3	3	3	11	4		2	3	29
d	1		1	11	2	2			17
e				9	1				10
f			1						1
x				1	1		1	2	5
y	1			6				3	10
	7	9	7	65	12	3	5	10	118

中2

	a	b	c	d	e	f	x	y	
a	10	1	1	10	0	2	1	2	27
b	4	3	5	12	3		1	1	29
c		4	9	13	4	1	1		32
d			1	11					12
e	1			5	1				7
f	2							2	4
x	1			1		1	1		4
y				2				1	3
	18	8	16	54	8	4	4	6	118

中3

	a	b	c	d	e	f	x	y	
a	4	2		9	1	2		1	19
b	5	9	5	26	5		1	2	53
c	4	1	3	13	2	3		1	27
d				3					3
e				5	1				6
f	1		1	1		2			5
x				3			2		5
y				1					1
	14	12	9	61	9	7	3	4	119

{7}\{8}

高1

	a	b	c	d	e	f	x	y	
a	9		1	14	1	1	1	1	28
b	17	14	4	21	1	1	3	4	65
c	8	2	6	12	4		1		33
d	1			10					11
e			1	3	4				8
f	2		1			2			5
x	1			2			3	2	8
y				1				1	2
	38	16	13	63	10	4	8	8	160

高2

	a	b	c	d	e	f	x	y	
a	13			12	2	4	1		32
b	12	9	3	28	4	2	1	2	61
c	5	1	1	4		1		1	13
d		1		10					11
e	1								1
f	2			5		1			8
x				7		1	4	1	13
y				3				2	5
	33	11	4	69	6	9	6	6	144

高3

	a	b	c	d	e	f	x	y	
a	7	1	1	10		1	1	1	22
b	5	6	2	23	4		1		41
c	2	1	8	7	1	2		1	22
d				5					5
e				2					2
f	4	1	1	7	1	3			17
x	1			2			7		10
y								4	4
	19	9	12	56	6	6	9	6	123

[9] 今日の世界が解決を迫られている重要な課題は何でしょうか。次の中から三つまで選んで下さい。

- a. 経済的格差 b. 新植民地主義 c. 貿易問題 d. 多国籍企業 e. 人口問題  
 f. 人種差別 g. 宗教の対立 h. 民族の対立 i. 公害・環境破壊問題  
 j. 自由の抑圧 k. 大国の小国支配 l. 各国間の紛争・戦争  
 m. エネルギー・資源・食糧問題 n. 核・軍備拡張問題 o. 東西体制の対立

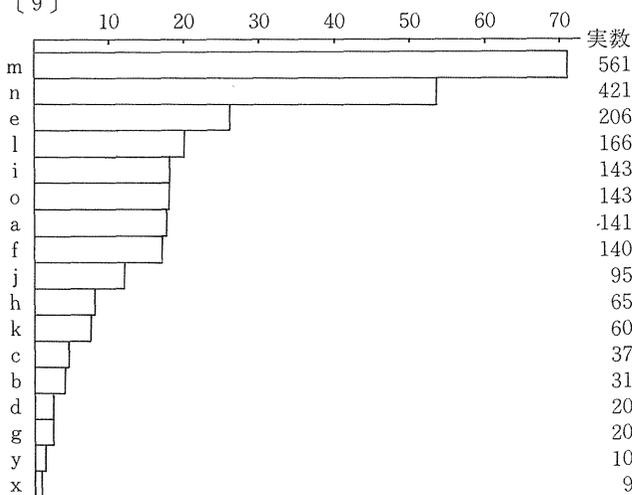
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	17	18	24	30	26	26
b	0	4	5	7	4	11
c	8	7	1	8	6	7
d	2	2	6	3	3	4
e	27	29	33	36	43	38
f	34	33	25	16	19	13
g	2	5	3	2	3	5
h	10	12	7	18	7	11
i	31	21	17	33	25	16
j	11	5	12	22	26	19
k	8	6	8	15	12	11
l	34	19	30	38	27	18
m	86	85	88	126	101	75
n	58	68	66	87	76	66
o	24	18	26	30	26	19
x	3	1	0	2	2	1
y	0	1	0	3	3	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	14.3	15.3	19.8	18.5	18.1	20.8
b	—	3.4	4.1	4.3	2.8	8.8
c	6.7	5.9	0.8	4.9	4.2	5.6
d	1.7	1.7	5.0	1.9	2.1	3.2
e	22.7	24.6	27.3	22.2	29.9	30.4
f	28.6	28.0	20.7	9.9	13.2	10.4
g	1.7	4.2	2.5	1.2	2.1	4.0
h	8.4	10.2	5.8	11.1	4.9	8.8
i	26.1	17.8	14.0	20.4	17.4	12.8
j	9.2	4.2	9.9	13.6	18.1	15.2
k	6.7	5.1	6.6	9.3	8.3	8.8
l	28.6	16.1	24.8	23.5	18.8	14.4
m	72.3	72.0	72.7	77.8	70.1	60.0
n	48.7	57.6	54.5	53.7	52.8	52.8
o	20.2	15.3	21.5	18.5	18.1	15.2
x	2.5	0.8	—	1.2	1.4	0.8
y	—	0.8	—	1.9	2.1	2.4

[9]



[10] 人種差別による人権侵害，一国の他国に対する政治的・軍事的圧力など，国際正義・国際平和を乱すできごとが発生した場合，これに対して日本はどのような態度をとったらよいと思いますか。次の中から，あなたの考えに最も近いものを二つまで選んで下さい。

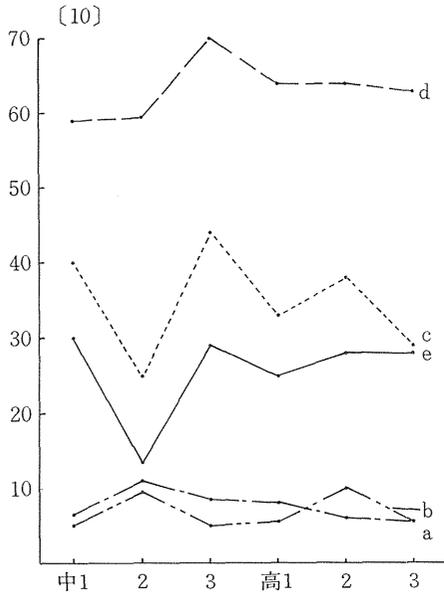
- a. 内政干渉になるから黙ってみているしかない。
- b. 当事国に対して政治的・経済的制裁を加える。
- c. かりに内政干渉と考えられようとも，人権尊重の立場から問題解決に働きかける。
- d. 国際機関を通じての問題解決に努力する。
- e. 政府間の話し合いだけでなく，民間レベルでの協力による問題解決にも働きかける。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	8	13	10	13	9	7
b	6	11	6	9	15	7
c	48	30	53	53	55	36
d	70	70	85	104	92	79
e	35	22	34	41	40	35
x	3	4	0	3	2	5
y	9	4	0	5	3	4

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	6.7	11.0	8.3	8.0	6.3	5.6
b	5.0	9.3	5.0	5.6	10.4	5.6
c	40.3	25.4	43.8	32.7	38.2	28.8
d	58.8	59.3	70.2	64.2	63.9	63.2
e	29.4	18.6	28.1	25.3	27.8	28.0
x	2.5	3.4	—	1.9	1.4	4.0
y	7.6	3.4	—	3.1	2.1	3.2



〔11〕 日本と他国との間に紛争が生じた場合に、あなたは、日本がどのような手段をとるのが最も望ましいと思いますか。次の中から一つ選んで下さい。

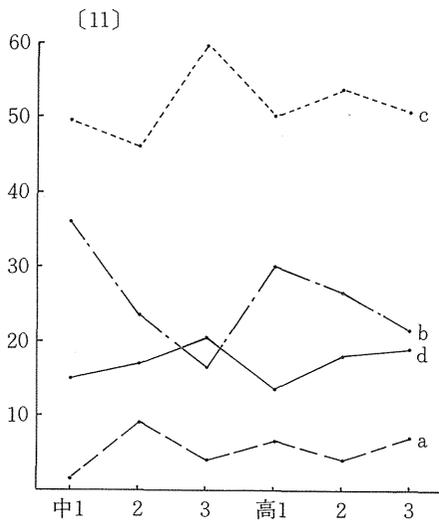
- a. 武力による威赫又は行使に訴えてでも解決する。
- b. 武力による威赫又は行使は絶対に避け、政府間の話し合いによる解決に努力する。
- c. 国際世論に訴え、国際機関を通して平和的に解決するよう努力する。
- d. 政府間の話し合いだけでなく、当事国民衆間の市民的レベルでの話し合いによる解決に努力する。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	2	11	5	11	6	9
b	43	28	20	48	39	27
c	59	54	72	81	77	63
d	18	20	25	22	25	24
x	3	5	1	3	3	5
y	1	1	0	3	2	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	1.7	9.3	4.1	6.8	4.2	7.2
b	36.1	23.7	16.5	29.6	27.1	21.6
c	49.6	45.8	59.5	50.0	53.5	50.4
d	15.1	16.9	20.7	13.6	17.4	19.2
x	2.5	4.2	0.8	1.9	2.1	4.0
y	0.8	0.8	—	1.9	1.4	2.4



[12] つぎのそれぞれの意見について、

「まったく賛成」の人はa、「どちらかといえば賛成」の人はb、「どちらともいえない」人はc、「どちらかといえば反対」の人はd、「まったく反対」の人はe、と回答して下さい。

① 現在の日本は平和である。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	16	25	27	53	47	44
b	68	54	64	77	67	55
c	20	24	18	16	20	13
d	11	7	8	9	7	7
e	4	6	4	7	3	4
x	0	0	0	0	0	0
y	0	2	0	0	0	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	13.4	21.2	22.3	32.7	32.6	35.2
b	57.1	45.8	52.9	47.5	46.5	44.0
c	16.8	20.3	14.9	9.9	13.9	10.4
d	9.2	5.9	6.6	5.6	4.9	5.6
e	3.4	5.1	3.3	4.3	2.1	3.2
x	—	—	—	—	—	—
y	—	1.7	—	—	—	1.6

② 現在の世界は平和である。

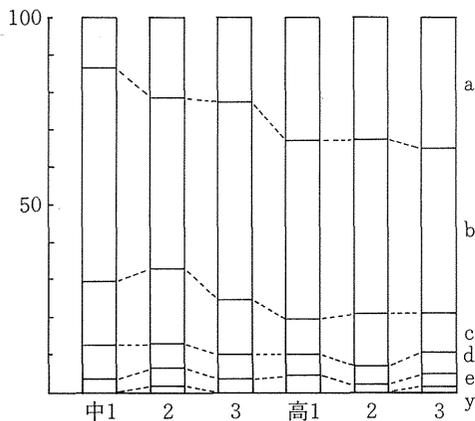
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	1	2	1	8	2	2
b	15	19	20	41	22	16
c	39	38	32	36	39	33
d	38	32	45	48	48	40
e	25	25	23	26	33	33
x	0	0	0	0	0	0
y	1	1	0	0	0	2

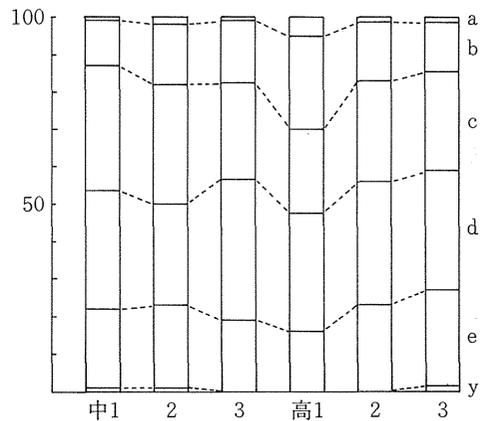
(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	0.8	1.7	0.8	4.9	1.4	1.6
b	12.6	16.1	16.5	25.3	15.3	12.8
c	32.8	32.2	26.4	22.2	27.1	26.4
d	31.9	27.1	37.2	29.6	33.3	32.0
e	21.0	21.2	19.0	16.0	22.9	26.4
x	—	—	—	—	—	—
y	0.8	0.8	—	—	—	1.6

(12)-①



(12)-②



[12]-①\{12}-③

中 1

	a	b	c	d	e	x	y	
a	7	5	2		2			16
b	48	15	3	1			1	68
c	16	3	1					20
d	11							11
e	2	1	1					4
x								0
y								0
	84	24	7	1	2	0	1	119

中 2

	a	b	c	d	e	x	y	
a	11	4	6	3	1			25
b	30	15	9					54
c	12	5	7					24
d	6		1					7
e	4				1		1	6
x								0
y	1						1	2
	64	24	23	3	2	0	2	118

中 3

	a	b	c	d	e	x	y	
a	6	9	7	2	3			27
b	36	19	6	2	1			64
c	10	6	2					18
d	5	3						8
e	3	1						4
x								0
y								0
	60	38	15	4	4	0	0	121

[12]-①\{12}-③

高 1

	a	b	c	d	e	x	y	
a	16	18	11	5	2			52
b	38	21	11	4	3			77
c	11	2	1	1	1			16
d	4	2	1	1	1			9
e	7							7
x								0
y								0
	76	43	24	11	7	0	0	161

高 2

	a	b	c	d	e	x	y	
a	10	17	13	6				46
b	36	17	9	3				65
c	11	6	3					20
d	4	2	1					7
e	3							3
x								0
y								0
	64	42	26	9	0	0	0	141

高 3

	a	b	c	d	e	x	y	
a	11	13	9	5	4	2		44
b	24	16	6	8	1			55
c	8	3	2					13
d	4		1	2				7
e	2	2						4
x								0
y							2	2
	49	34	18	15	5	2	2	125

〔12〕-②\〔12〕-③

中 1

	a	b	c	d	e	x	y	
a					1			1
b	8	4	2		1			15
c	30	7	2					39
d	28	9	1					38
e	18	4	2	1				25
x								0
y							1	1
	84	24	7	1	2	0	1	119

中 2

	a	b	c	d	e	x	y	
a		1	1					2
b	9	4	4	2				19
c	17	9	11		1			38
d	17	9	5	1				32
e	20	1	2		1		1	25
x								0
y							1	1
	63	24	23	3	2	0	2	117

中 3

	a	b	c	d	e	x	y	
a			1					1
b	6	8	2	3	1			20
c	12	9	10		1			32
d	28	15	1	1				45
e	14	6	1		2			23
x								0
y								0
	60	38	15	4	4	0	0	121

〔12〕-②\〔12〕-③

高 1

	a	b	c	d	e	x	y	
a	15	9	5	1	2			32
b	10	5	1	2	1			19
c	5	2		1	6			14
d								0
e		25			2			27
x		1	2		2			5
y								0
	30	42	8	4	13	0	0	97

高 2

	a	b	c	d	e	x	y	
a			2					2
b	10	17	10	1				38
c	30	11	5	1				47
d	19	5	6	2				32
e		42						42
x								0
y								0
	59	75	23	4	0	0	0	161

高 3

	a	b	c	d	e	x	y	
a				1		1		2
b	5	3	3	3	2			16
c	10	11	6	4	1	1		33
d	15	13	7	3	2			40
e	19	7	2	4		1		33
x								0
y							2	2
	49	34	18	15	5	3	2	126

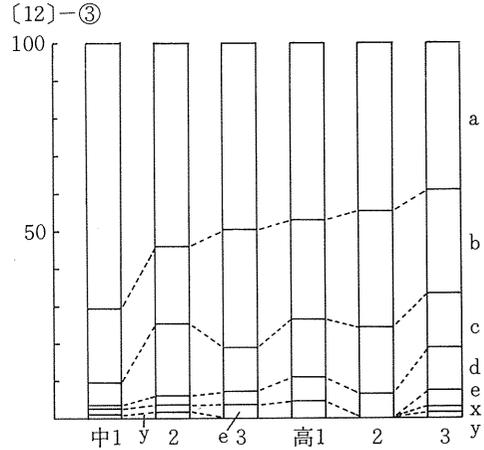
③ 戦争が行われていなくても、社会にさまざまな不平等や不正が存在する限り、真の平和とはいえない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	84	64	60	76	64	49
b	24	24	38	43	42	34
c	7	23	15	25	26	18
d	1	3	4	11	9	15
e	2	2	4	7	0	5
x	0	0	0	0	0	2
y	1	2	0	0	0	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	70.6	54.2	49.6	46.9	44.4	39.2
b	20.2	20.3	31.4	26.5	29.2	27.2
c	5.9	19.5	12.4	15.4	18.1	14.4
d	0.8	2.5	3.3	6.8	6.3	12.0
e	1.7	1.7	3.3	4.3	—	4.0
x	—	—	—	—	—	1.6
y	0.8	1.7	—	—	—	1.6



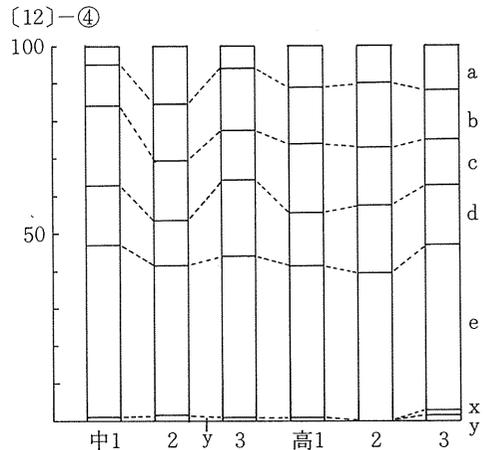
④ 正義と平和を守るためには、戦争もやむをえない時がある。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	6	18	7	18	14	15
b	13	18	20	24	25	16
c	26	19	16	30	22	15
d	19	14	25	22	25	20
e	54	47	52	66	57	55
x	0	0	0	0	0	2
y	1	2	1	1	0	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	5.0	15.3	5.8	11.1	9.7	12.0
b	10.9	15.3	16.5	14.8	17.4	12.8
c	21.8	16.1	13.2	18.5	15.3	12.0
d	16.0	11.9	20.7	13.5	17.4	16.0
e	45.4	39.8	43.0	40.7	39.6	44.0
x	—	—	—	—	—	1.6
y	0.8	1.7	0.8	0.6	—	1.6



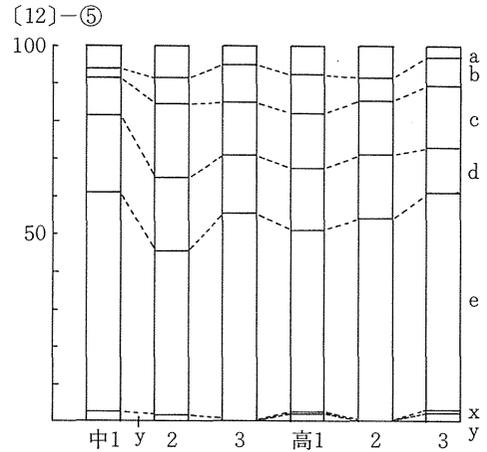
⑤ 私たちの国を守るためには軍事力が必要であり、国のためなら戦争に協力しなければならない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	7	10	6	12	12	4
b	3	8	11	17	9	9
c	12	23	18	24	21	21
d	24	23	19	26	23	15
e	70	52	67	79	77	71
x	0	0	0	1	0	1
y	3	2	0	3	0	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	5.9	8.5	5.0	7.4	8.3	3.2
b	2.5	6.8	9.1	10.5	6.3	7.2
c	10.1	19.5	14.9	14.8	14.6	16.8
d	20.2	19.5	15.7	16.0	16.0	12.0
e	58.8	44.1	55.4	48.8	53.5	56.8
x	—	—	—	0.6	—	0.8
y	2.5	1.7	—	1.9	—	2.4



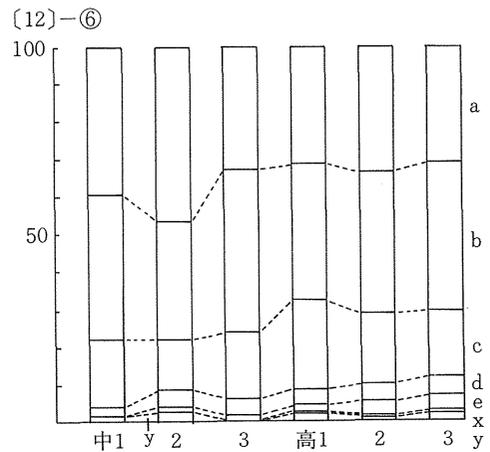
⑥ 戦争を防ぐには国連に協力すべきである。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	47	55	40	51	48	39
b	46	38	52	58	55	49
c	21	16	22	38	28	22
d	3	5	5	7	6	6
e	0	2	2	3	6	5
x	0	0	0	1	1	1
y	2	3	0	3	1	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	39.5	46.6	33.1	31.5	33.3	31.2
b	38.7	32.2	43.0	35.8	38.2	39.2
c	17.6	13.6	18.2	23.5	19.4	17.6
d	2.5	4.2	4.1	4.3	4.2	4.8
e	—	1.7	1.7	1.9	4.2	4.0
x	—	—	—	0.6	0.7	0.8
y	1.7	2.5	—	1.9	0.7	2.4



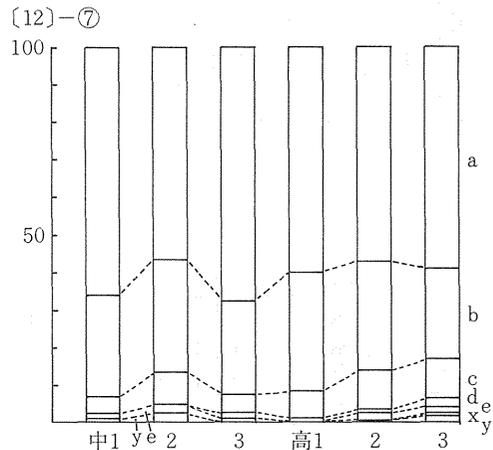
⑦ 戦争の原因を防ぐために、私たちは広く世界の人びととの交流を日常から心がけるべきである。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	79	67	82	97	81	73
b	32	35	30	50	40	30
c	5	10	6	13	15	13
d	0	0	2	1	1	3
e	2	3	1	0	3	2
x	0	0	0	0	0	1
y	1	3	0	0	1	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	66.4	56.8	67.8	59.9	56.3	58.4
b	26.9	29.7	24.8	30.9	27.8	24.0
c	4.2	8.5	5.0	8.0	10.4	10.4
d	—	—	1.7	0.6	0.7	2.4
e	1.7	2.5	0.8	—	2.1	1.6
x	—	—	—	—	—	0.8
y	0.8	2.5	—	—	0.7	1.6



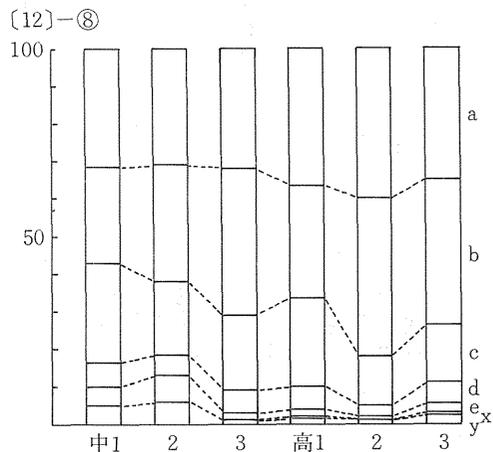
⑧ 今日の大国間の平和共存は、対立者をひきはなすことによる平和であって、真の協力に基く“連帯による平和”ではない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	37	36	39	59	57	44
b	30	36	47	49	60	48
c	31	23	24	38	19	19
d	8	7	7	10	4	7
e	6	8	3	3	2	3
x	0	0	0	1	0	1
y	6	7	1	2	1	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	31.1	30.5	32.2	36.4	39.6	35.2
b	25.2	30.5	38.8	30.2	41.7	38.4
c	26.1	19.5	19.8	23.5	13.2	15.2
d	6.7	5.9	5.8	6.2	2.8	5.6
e	5.0	6.8	2.5	1.9	1.4	2.4
x	—	—	—	0.6	—	0.8
y	5.0	5.9	0.8	1.2	0.7	2.4

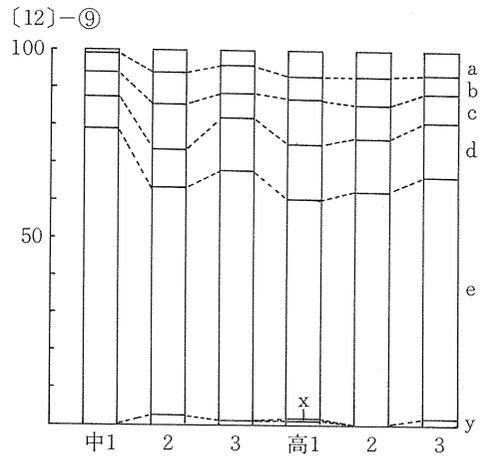


⑨ 場合によっては、核兵器（原水爆など）を使わなければ、戦争することもやむを得ない。  
 (実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	1	7	5	11	10	8
b	6	10	9	10	11	6
c	8	14	8	19	13	10
d	10	12	17	24	20	18
e	93	72	81	96	90	80
x	0	0	0	1	0	0
y	0	3	1	1	0	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	0.8	5.9	4.1	6.8	6.9	6.4
b	5.0	8.5	7.4	6.2	7.6	4.8
c	6.7	11.9	6.6	11.7	9.0	8.0
d	8.4	10.2	14.0	14.8	13.9	14.4
e	78.2	61.0	66.9	59.3	62.5	64.0
x	—	—	—	0.6	—	—
y	—	2.5	0.8	0.6	—	1.6



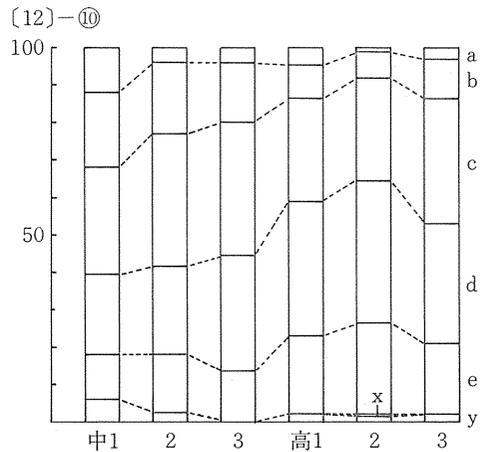
⑩ 原水爆禁止のための運動は大いに効果をあげてきた。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	14	5	5	7	1	4
b	24	22	19	15	11	13
c	34	42	43	44	39	42
d	26	28	38	59	55	40
e	15	18	16	34	34	23
x	0	0	0	0	1	0
y	7	3	0	3	2	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	11.8	4.2	4.1	4.3	0.7	3.2
b	20.2	18.6	15.7	9.3	7.6	10.4
c	28.6	35.6	35.5	27.2	27.1	33.6
d	21.8	23.7	31.4	36.4	38.2	32.0
e	12.6	15.3	13.2	21.0	23.6	18.4
x	—	—	—	—	0.7	—
y	5.9	2.5	—	1.9	1.4	1.6



⑪ 核実験は、核の平和利用のためならば、認められるべきである。

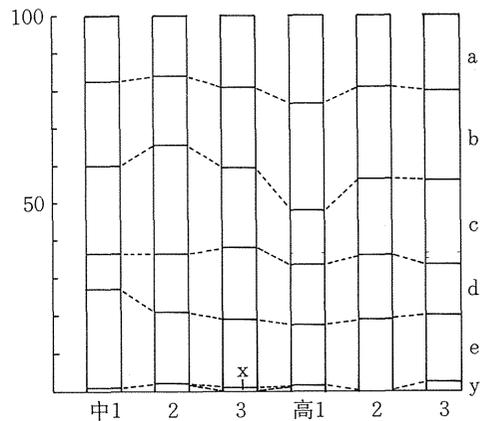
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	21	19	23	38	27	25
b	27	22	26	46	36	30
c	28	34	26	24	27	28
d	11	18	23	26	24	17
e	31	24	22	26	27	22
x	0	0	1	0	0	0
y	1	2	0	2	0	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	17.6	16.1	19.0	23.5	18.8	20.0
b	22.7	18.6	21.5	28.4	25.0	24.0
c	23.5	28.8	21.5	14.8	18.8	22.4
d	9.2	15.3	19.0	16.0	16.7	13.6
e	26.1	20.3	18.2	16.0	18.8	17.6
x	—	—	0.8	—	—	—
y	0.8	1.7	—	1.2	—	2.4

〔12〕-⑪



⑫ 日本国憲法の平和的条項（前文・第9条）では、戦争をしないこと、そのために戦力をもたないことを規定しているが、これは日本の誇りである。

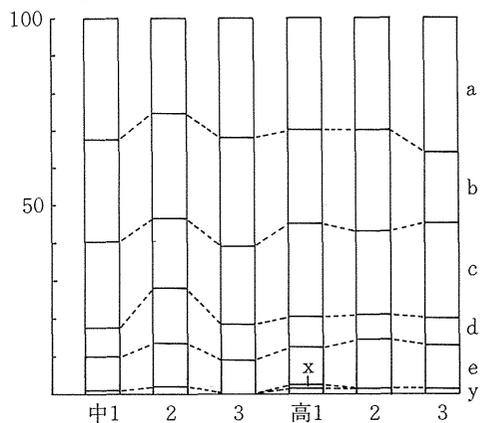
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	39	30	39	49	43	45
b	32	33	35	40	39	24
c	28	22	25	39	31	30
d	9	17	11	13	9	9
e	11	14	11	16	19	14
x	0	0	0	2	0	0
y	1	2	0	2	2	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	32.8	25.4	32.2	30.2	29.9	36.0
b	26.9	28.0	28.9	24.7	27.1	19.2
c	23.5	18.6	20.7	24.1	21.5	24.0
d	7.6	14.4	9.1	8.0	6.3	7.2
e	9.2	11.9	9.1	9.9	13.2	11.2
x	—	—	—	1.2	—	—
y	0.8	1.7	—	1.2	1.4	1.6

〔12〕-⑫



(12)-⑤\{(12)-⑫

中 1

	a	b	c	d	e	x	y	
a	1	2	3	2				8
b	3							3
c	2	2	8					12
d	8	8	5	2	1			24
e	24	20	12	4	9		1	70
x								0
y	1			1	1			3
	39	32	28	9	11	0	1	120

中 2

	a	b	c	d	e	x	y	
a	3	2		2	3			10
b	1	3	3	1	1			9
c	1	9	7	2	3		1	23
d	4	7	6	5	1			23
e	21	12	7	6	6			52
x								0
y				1			1	2
	30	33	23	17	14	0	2	119

中 3

	a	b	c	d	e	x	y	
a				2	4			6
b	2	3	4	1	1			11
c	7	5	2	3	1			18
d	6	7	6					19
e	24	20	13	5	5			67
x								0
y								0
	39	35	25	11	11	0	0	121

(12)-⑤\{(12)-⑫

高 1

	a	b	c	d	e	x	y	
a	3	2	1		4	1		11
b	3	2	6	3	3			17
c	6	6	10		2			24
d	9	8	5	2	2			26
e	28	21	17	8	5			79
x						1		1
y		1					2	3
	49	40	39	13	16	2	2	161

高 2

	a	b	c	d	e	x	y	
a		1	2	2	7			12
b	1	2	4	1	1			9
c	1	8	7		3		2	21
d	7	7	4	4	1			23
e	33	21	14	2	7			77
x								0
y								0
	42	39	31	9	19	0	2	142

高 3

	a	b	c	d	e	x	y	
a				1	3			4
b			2	3	4			9
c	2	6	10	3				21
d	5	6	2	1				14
e	37	12	16		6			71
x	1							1
y				1			2	3
	45	24	30	9	13	0	2	123

〔13〕〔8〕及び〔9〕で考えた日本及び世界の課題の解決に、現在のあなたはどのようにかわったらよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から一つ選んで下さい。

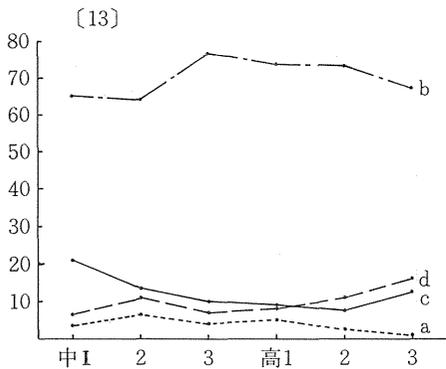
- a. 大人の問題だから大人にまかせておけばよい。
- b. 問題のありかをできるだけ正確に認識し、大人になってから積極的に問題解決ができるような能力と態度を養っておく。
- c. 大人だけにまかせず、現在の自分でもできるだけのことを努力する。
- d. あまり関心がない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	4	8	5	8	4	1
b	77	75	93	119	105	84
c	25	16	12	15	11	16
d	8	13	9	14	16	20
x	3	3	1	3	4	4
y	1	2	1	3	3	0

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	3.4	6.8	4.1	4.9	2.8	0.8
b	64.7	63.6	76.9	73.5	72.9	67.2
c	21.0	13.6	9.9	9.3	7.6	12.8
d	6.7	11.0	7.4	8.6	11.1	16.0
x	2.5	2.5	0.8	1.9	2.8	3.2
y	0.8	1.7	0.8	1.9	2.1	—



{6}\{13}

中1

	a	b	c	d	x	y	
a		7	1	1	1		10
b		28	5	2	1		36
c	2	20	3	2	1	1	29
d	1	11	6				18
e		6	4				10
f				1			1
x		2	3				5
y	1	4	3	2			10
	4	78	25	8	3	1	119

中2

	a	b	c	d	x	y	
a	2	20	2	2	1		27
b	2	15	5	4	1	1	28
c	2	21	4	4	1		32
d	1	8	2	1			12
e		5	2				7
f	1			2		1	4
x		3	1				4
y		3					3
	8	75	16	13	3	2	117

中3

	a	b	c	d	x	y	
a	1	12	3	3			19
b	3	41	4	4		1	53
c		25		1	1		27
d		2	1				3
e		6	1				7
f		3	2				5
x	1	3		1			5
y		1					1
	5	93	11	9	1	1	120

{6}\{13}

高1

	a	b	c	d	x	y	
a		20	4	4		1	29
b	4	53	3	4		1	65
c	2	25	2	3	1		33
d		8	3				11
e	1	6	1				8
f	1	2	1	2			6
x		4	1	1	2		8
y				1		1	2
	8	118	15	15	3	3	162

高2

	a	b	c	d	x	y	
a	1	19	4	6	2		32
b	2	46	4	3	1	3	59
c	1	8		3	1		13
d		10	1				11
e				1			1
f		6		2			8
x		11	2				13
y		4		1			5
	4	104	11	16	4	3	142

高3

	a	b	c	d	x	y	
a		13	5	4			22
b		34	3	4	1		42
c	1	13	1	6	1		22
d		4	1				5
e		2					2
f		9	3	4	1		17
x		6	2	1	1		10
y		2	1	1			4
	1	83	16	20	4	0	124

[14] つぎのそれぞれの考え方について

「そうだと思う」人は a,

「どちらかといえばそうだと思う」人は b,

「どちらともいえない」人は c,

「どちらかといえばそうは思わない」人は d,

「そうは思わない人」は e, と回答して下さい。

① 過去の死んだ記録が歴史なのではない。歴史は現在に行為するためのものでなくてはならない。

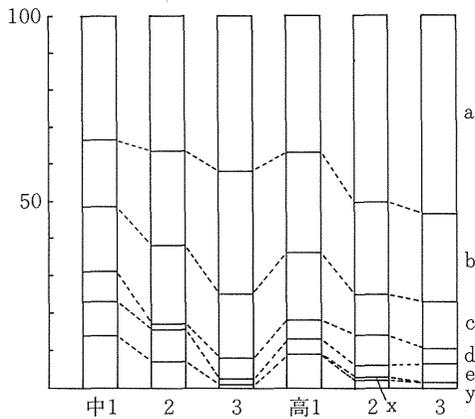
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	40	43	51	60	73	67
b	21	30	40	42	35	28
c	21	25	20	29	16	16
d	8	2	7	8	11	5
e	10	10	2	6	5	6
x	0	0	0	0	1	0
y	16	8	1	15	3	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	33.6	36.4	42.1	37.0	50.7	53.6
b	17.6	25.4	33.1	25.9	24.3	22.4
c	17.6	21.2	16.5	17.9	11.1	12.8
d	6.7	1.7	5.8	4.9	7.6	4.0
e	8.4	8.5	1.7	3.7	3.5	4.8
x	—	—	—	—	0.7	—
y	13.4	6.8	0.8	9.3	2.1	1.6

[14]-①



② 歴史現象は、そのすべてが必然的な因果関係によってのみ説明されるものではなく、歴史を形成する人間の自由意志や偶然性を否定することはできない。

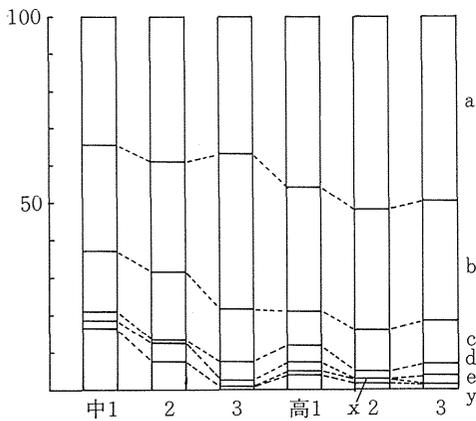
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	41	46	45	75	75	62
b	33	35	50	53	46	40
c	18	21	17	15	16	13
d	3	1	6	7	3	4
e	2	6	2	4	0	3
x	0	0	0	1	2	0
y	20	9	1	7	2	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	34.5	39.0	37.2	46.3	52.1	49.6
b	27.7	29.7	41.3	32.7	31.9	32.0
c	15.1	17.8	14.0	9.3	11.1	10.4
d	2.5	0.8	5.0	4.3	2.1	3.2
e	1.7	5.1	1.7	2.5	—	2.4
x	—	—	—	0.6	1.4	—
y	16.8	7.6	0.8	4.3	1.4	1.6

(14) - ②



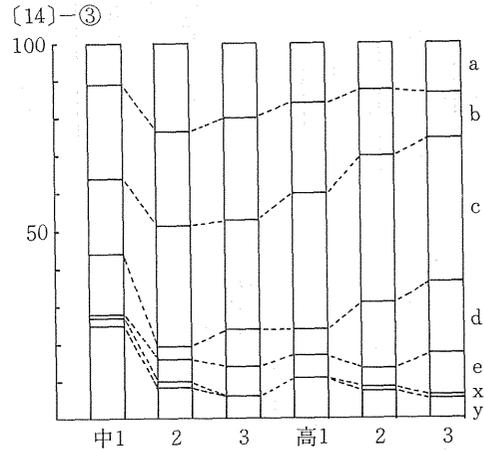
③ 歴史は事実・現実の普遍的な側面ではなく、その特殊個性的な側面に着眼して考察するものである。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	13	28	18	26	18	17
b	30	29	39	39	25	15
c	23	38	35	58	56	48
d	18	4	12	12	26	24
e	1	7	10	9	7	14
x	2	2	0	0	1	1
y	30	10	7	18	11	7

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	10.9	23.7	14.9	16.0	12.5	13.6
b	25.2	24.6	32.2	24.1	17.4	12.0
c	19.3	32.2	28.9	35.8	38.9	38.4
d	15.1	3.4	9.9	7.4	18.1	19.2
e	0.8	5.9	8.3	5.6	4.9	11.2
x	1.7	1.7	—	—	0.7	0.8
y	25.2	8.5	5.8	11.1	7.6	5.6



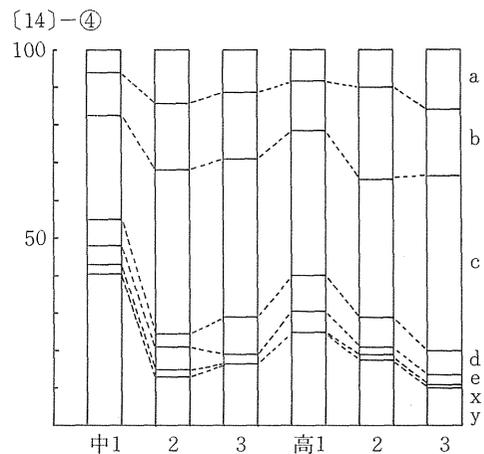
④ 歴史的变化における発展性と、歴史的過程における連続性とは、歴史認識における半面の真理のみを有するものである。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	7	17	14	14	14	20
b	14	21	21	21	36	22
c	29	50	49	64	52	57
d	8	4	12	14	12	8
e	6	7	4	9	3	4
x	2	3	0	0	2	1
y	49	15	20	40	25	12

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	5.9	14.4	11.6	8.6	9.7	16.0
b	11.8	17.8	17.4	13.0	25.0	17.6
c	24.4	42.4	40.5	39.5	36.1	45.6
d	6.7	3.4	9.9	8.6	8.3	6.4
e	5.0	5.9	3.3	5.6	2.1	3.2
x	1.7	2.5	—	—	1.4	0.8
y	41.2	12.7	16.5	24.7	17.4	9.6



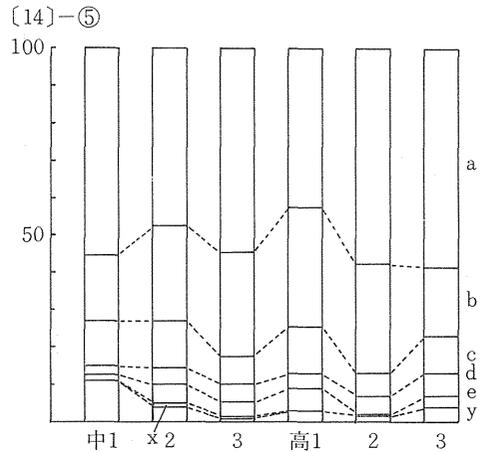
⑤ 世界史上に存在した幾多の文化圏は、それぞれに固有の歴史的意義をもっており、その価値に優劣をつけることはできない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	66	56	66	69	83	73
b	21	30	34	52	42	23
c	12	15	9	19	8	13
d	3	5	5	6	7	7
e	2	6	5	10	1	4
x	0	1	1	0	0	0
y	13	5	1	5	2	5

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	55.5	47.5	54.5	42.6	57.6	58.4
b	17.6	25.4	28.1	32.1	29.2	18.4
c	10.1	12.7	7.4	11.7	5.6	10.4
d	2.5	4.2	4.1	3.7	4.9	5.6
e	1.7	5.1	4.1	6.2	0.7	3.2
x	—	0.8	0.8	—	—	—
y	10.9	4.2	0.8	3.1	1.4	4.0



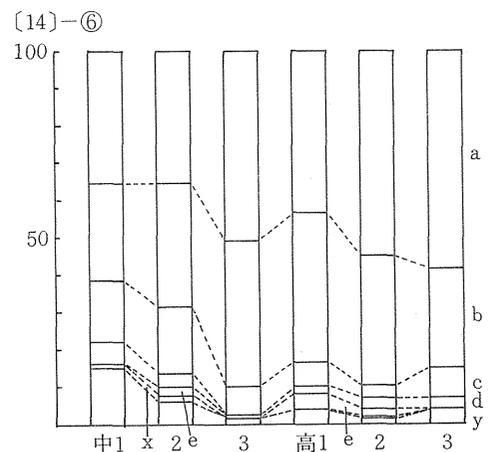
⑥ ある同一時代においては、諸文化圏の間に「先進」、 「後進」の関係が生れるが、どの文化圏にもその発展の内的要因（自己運動）と外的要因（周辺よりの影響）がある。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	42	42	62	70	79	73
b	31	39	47	65	50	33
c	18	21	9	12	5	10
d	7	4	1	3	4	4
e	0	3	0	6	3	0
x	1	2	0	0	1	0
y	18	7	2	7	2	5

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	35.3	35.6	51.2	43.2	54.9	58.4
b	26.1	33.1	38.8	40.1	34.7	26.4
c	15.1	17.8	7.4	7.4	3.5	8.0
d	5.9	3.4	0.8	1.9	2.8	3.2
e	—	2.5	—	3.7	2.1	—
x	0.8	1.7	—	—	0.7	—
y	15.1	5.9	1.7	4.3	1.4	4.0



⑦ 古代・中世・近代という時代区分の方法と根拠は、もともとヨーロッパ史に固有のもの  
 であって、各文化圏はそれぞれ独自の時代区分の方法と根拠をもつべきものである。

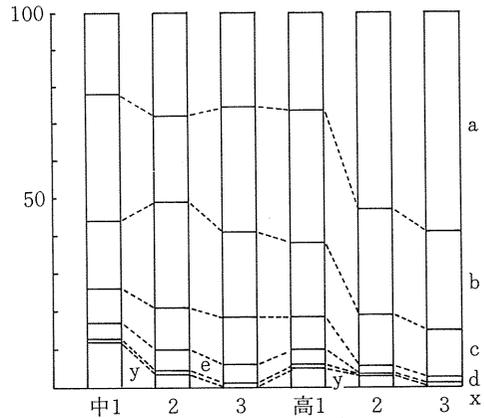
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	26	33	31	43	76	74
b	41	27	40	58	40	32
c	20	33	28	31	21	15
d	10	13	15	14	3	2
e	5	7	6	7	0	0
x	1	1	1	1	1	1
y	14	4	0	8	4	0

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	21.8	28.0	25.6	26.5	52.8	59.2
b	34.5	22.9	33.1	35.8	27.8	25.6
c	16.8	28.0	23.1	19.1	14.6	12.0
d	8.4	11.0	12.4	8.6	2.1	1.6
e	4.2	5.9	5.0	4.3	—	—
x	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7	0.8
y	11.8	3.4	—	4.9	2.8	—

〔14〕-⑦



⑧ 近代世界形成の主導力となった西欧世界を中心とする世界史認識は、今日の歴史状況に  
 おいても、なお有効な歴史認識の方法である。

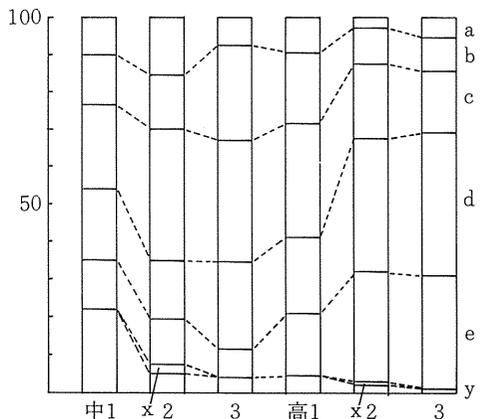
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	12	18	9	15	4	7
b	16	17	31	31	14	11
c	24	41	39	51	29	20
d	22	18	28	32	51	47
e	16	14	9	27	42	38
x	0	3	0	0	1	0
y	26	6	5	7	3	1

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	10.1	15.3	7.4	9.3	2.8	5.6
b	13.4	14.4	25.6	19.1	9.7	8.8
c	20.2	34.7	32.2	31.5	20.1	16.0
d	18.5	15.3	23.1	19.8	35.4	37.6
e	13.4	11.9	7.4	16.7	29.2	30.4
x	—	2.5	—	—	0.7	—
y	21.8	5.1	4.1	4.3	2.1	0.8

〔14〕-⑧



[15] 世界の歴史にはこれまで多くの文化圏が興亡してきました。そのあるものはすでに消滅し、あるものは今日その盛期を迎えています。あなたが歴史を学ぶ上で、特に関心をもつ文化圏を、次の中から五つまであげて下さい。

- a. メソポタミア b. エジプト c. ミノア d. インド e. 中国  
 f. ギリシア・ローマ g. シリア h. アフリカ i. ペルシア j. メソアメリカ  
 k. アンデス l. ビザンツ m. アラビア n. 西欧 o. 日本 p. ロシア  
 q. アメリカ

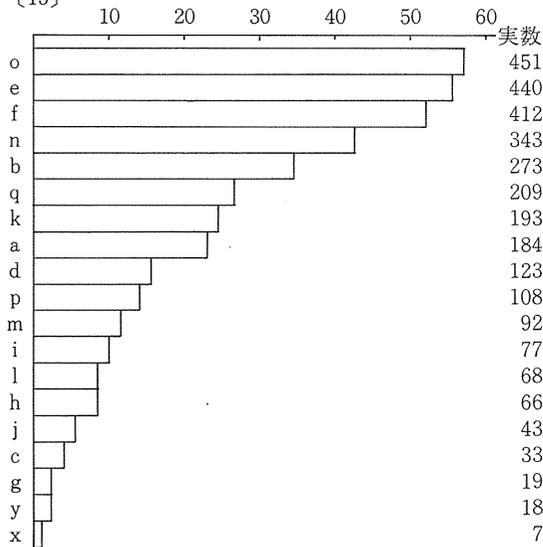
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	24	32	37	34	34	23
b	61	45	49	55	38	25
c	3	6	6	8	6	4
d	13	13	23	25	27	22
e	61	54	66	94	85	80
f	75	66	77	69	75	50
g	2	5	5	3	2	2
h	10	7	11	10	13	15
i	13	8	8	16	18	14
j	5	4	0	6	14	14
k	25	27	42	42	36	21
l	3	6	9	14	21	15
m	16	17	9	14	19	17
n	43	47	63	73	68	49
o	67	76	63	85	85	75
p	10	18	16	24	22	18
q	33	37	28	47	35	29
x	5	1	0	0	0	1
y	4	2	1	8	1	2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	20.2	27.1	30.6	21.0	23.6	18.4
b	51.3	38.1	40.5	34.0	26.4	20.0
c	2.5	5.1	5.0	4.9	4.2	3.2
d	10.9	11.0	19.0	15.4	18.8	17.6
e	51.3	45.8	54.5	58.0	59.0	64.0
f	63.0	55.9	63.6	42.6	52.1	40.0
g	1.7	4.2	4.1	3.1	1.4	1.6
h	8.4	5.9	9.1	6.2	9.0	12.0
i	10.9	6.8	6.6	9.9	12.5	11.2
j	4.2	3.4	—	3.7	9.7	11.2
k	21.0	22.9	34.7	25.9	25.0	16.8
l	2.5	5.1	7.4	8.6	14.6	12.0
m	13.4	14.4	7.4	8.6	13.0	13.6
n	36.1	39.8	52.1	45.1	47.2	39.2
o	56.3	64.4	52.1	52.5	59.0	60.0
p	8.4	15.3	13.2	14.8	15.3	14.4
q	27.7	31.4	23.1	29.0	24.3	23.2
x	4.2	0.8	—	—	—	0.8
y	3.4	1.7	0.8	4.9	0.7	1.6

[15]



[16] 20世紀後半の世界の歴史は、20世紀前半のそれと比べた場合、どのような点に特に大きな特色や相違があると思いますか。つぎの中から三つまであげて下さい。

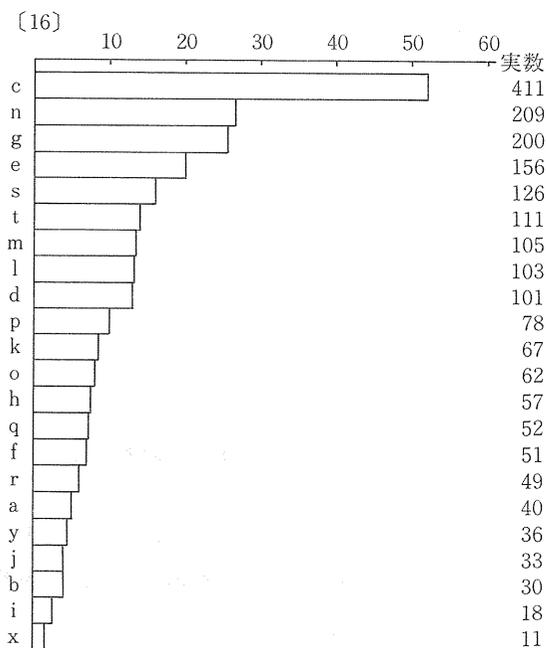
- a. 新植民地主義の成立 b. ファシズムの支配 c. 核問題の登場  
d. 自由主義・国民主義運動の展開 e. アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の独立  
f. 創造的文化の停滞 g. 社会主義国家の成立  
h. グローバリズム（地球主義）思想の誕生 i. 帝国主義による植民地建設  
j. 大恐慌の発生 k. 大衆社会の形成 l. 南北問題の登場 m. 機械文明の誕生  
n. 宇宙開発競争の開始 o. 局地戦争の進行 p. 管理社会化の進行  
q. 集団安全保障体制の確立 r. 宗教の影響力後退 s. 国際社会化の進行  
t. 人権思想の普及

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	3	10	3	6	6	12
b	6	5	4	7	5	3
c	52	58	68	83	80	70
d	36	18	12	21	5	9
e	23	22	22	30	34	25
f	2	7	6	12	14	10
g	14	14	53	57	35	27
h	6	7	10	12	11	11
i	3	5	4	3	3	0
j	10	6	8	3	5	1
k	9	6	7	11	15	19
l	12	16	19	18	19	19
m	26	14	12	19	19	15
n	46	34	41	41	27	20
o	7	11	12	12	11	9
p	1	6	16	15	16	24
q	4	12	5	9	7	15
r	9	6	7	8	11	8
s	17	10	18	23	35	23
t	17	27	12	26	19	10
x	3	2	0	4	1	1
y	8	7	1	11	5	4

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	2.5	8.5	2.5	3.7	4.2	9.6
b	5.0	4.2	3.3	4.3	3.5	2.4
c	43.7	49.2	56.2	51.2	55.6	56.0
d	30.1	15.3	9.9	13.0	3.5	7.2
e	19.3	18.6	18.2	18.5	23.6	20.0
f	1.7	5.9	5.0	7.4	9.7	8.0
g	11.8	11.9	43.8	35.2	24.3	21.6
h	5.0	5.9	8.3	7.4	7.6	8.8
i	2.5	4.2	3.3	1.9	2.1	—
j	8.4	5.1	6.6	1.9	3.5	0.8
k	7.6	5.1	5.8	6.8	10.4	15.2
l	10.1	13.6	15.7	11.1	13.2	15.2
m	21.8	11.9	9.9	11.7	13.2	12.0
n	38.7	28.8	33.9	25.3	18.8	16.0
o	5.9	9.3	9.9	7.4	7.6	7.2
p	0.8	5.1	13.2	9.3	11.1	19.2
q	3.4	10.2	4.1	5.6	4.9	12.0
r	7.6	5.1	5.8	4.9	7.6	6.4
s	14.3	8.5	14.9	14.2	24.3	18.4
t	14.3	22.9	9.9	16.0	13.2	8.0
x	2.5	1.7	—	2.5	0.7	0.8
y	6.7	5.9	0.8	6.8	3.5	3.2



[17] 日本には、震災や風水害などの災害が多い。その理由として重要と思われるものを、次の a ~ j の中から四つまで（四つ以内）選んで下さい。

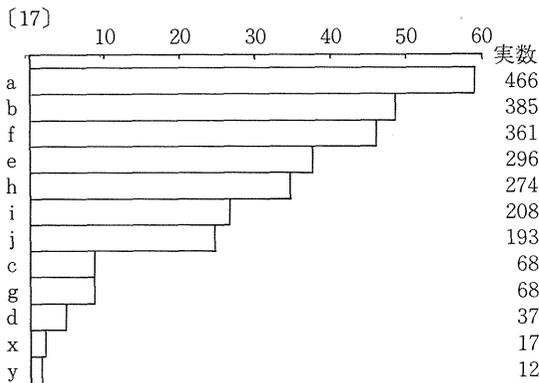
- a. 日本列島の地盤は不安定である。
- b. 気象の変化がはげしい。
- c. 文明が発達しすぎた。
- d. 経済活動がさかんにすぎた。
- e. 防災技術が遅れている。
- f. 国や自治体が防災を軽視してきた。
- g. 国民は、災害になれ、あきらめている。
- h. 人口が多すぎる。
- i. 国土がせまい。
- j. 大都市が多くなってきた。

(実数)

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	76	67	75	98	86	64
b	60	60	81	65	70	49
c	11	17	12	17	5	6
d	4	7	5	12	2	7
e	39	38	48	66	55	50
f	43	43	69	68	66	72
g	14	7	11	12	10	14
h	37	42	36	58	64	37
i	36	28	28	49	40	27
j	25	42	28	53	29	16
x	7	1	1	4	3	1
y	2	2	0	3	3	2

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	63.9	56.8	62.0	60.5	59.7	51.2
b	50.4	50.8	66.9	40.1	48.6	39.2
c	9.2	14.4	9.9	10.5	3.5	4.8
d	3.4	5.9	4.1	7.4	1.4	5.6
e	32.8	32.2	39.7	40.7	38.2	40.0
f	36.1	36.4	57.0	42.0	45.8	57.6
g	11.8	5.9	9.1	7.4	6.9	11.2
h	31.1	35.6	29.8	35.8	44.4	29.6
i	30.3	23.7	23.1	30.2	27.8	21.6
j	21.0	35.6	23.1	32.7	20.1	12.8
x	5.9	0.8	0.8	2.5	2.1	0.8
y	1.7	1.7	—	1.9	2.1	1.6



[18] アメリカ合衆国が超大国とよばれるほど発展した理由として重要と思われるものを、次の a ~ j の中から四つまで選んで下さい。

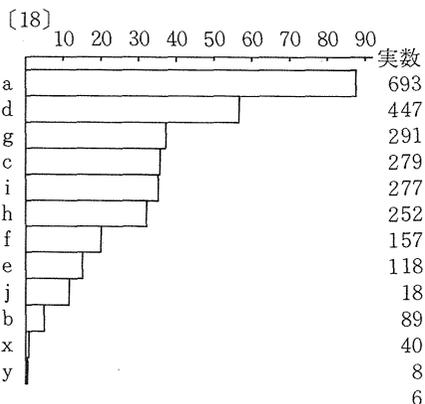
- a. 広大な国土と豊かな資源   b. 高い教育水準   c. すぐれた科学技術   d. 巨大な資本  
 e. 外国にもっている権益   f. 豊富な労働力   g. 自由競争による活気   h. 開拓者精神  
 i. 巨大な軍事力   j. 政治的団結（連邦政府の強化）

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	113	94	110	144	126	106
b	4	9	4	11	6	6
c	50	44	47	53	42	43
d	53	58	82	94	95	65
e	11	14	34	30	14	15
f	30	14	33	32	27	21
g	36	41	48	56	65	45
h	41	44	38	40	42	47
i	46	36	38	61	49	47
j	22	17	16	16	12	6
x	1	1	1	0	5	0
y	1	1	0	1	3	0

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	95.0	79.7	90.9	88.9	87.5	84.8
b	3.4	7.6	3.3	6.8	4.2	4.8
c	42.0	37.3	38.8	32.7	29.2	34.4
d	44.5	49.2	67.8	58.0	66.0	52.0
e	9.2	11.9	28.1	18.5	9.7	12.0
f	25.2	11.9	27.3	19.8	18.8	16.8
g	30.3	34.7	39.7	34.6	45.1	36.0
h	34.5	37.3	31.4	24.7	29.2	37.6
i	38.7	30.5	31.4	37.7	34.0	37.6
j	18.5	14.4	13.2	9.9	8.3	4.8
x	0.8	0.8	0.8	—	3.5	—
y	0.8	0.8	—	0.6	2.1	—



[18)\[19]

中 2

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	81	8	19	42	12	17	20	15	41	34	1	2	292
b	9	3	3	4	1	2	3	2	4	2			33
c	39	3	20	18	4	10	7	7	19	15			142
d	48	4	12	33	11	9	15	8	27	23			190
e	12	1	5	4	4	2	7	9	6				50
f	10	1	1	2	2	3	3	6	8	5	1		42
g	32	3	5	16	11	11	12	8	18	20	1		137
h	33	3	7	18	6	8	12	9	15	15	1	2	129
i	30	1	12	19	4	4	4	7	29	10			120
j	15	1	3	10	4	4	6	2	6	10			61
x											1		1
y												1	1
$\Sigma$	309	27	83	167	59	72	84	71	176	140	5	5	1198

中 3

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	90	3	17	80	4	25	91	8	30	44	1		393
b	4	1		1	1	3		2					12
c	36	14	34	4	12	39	3	11	20	2			175
d	69	13	60	3	19	71	6	22	34	1			298
e	26	1	5	24		4	30	4	8	15			117
f	27	2	5	25		11	30	2	4	10			116
g	39	1	6	30	4	14	42	7	12	22			177
h	27	1	7	28	3	5	29	7	8	19	1		135
i	31	1	6	24	1	6	29	3	21	15	1		138
j	15	2		10		4	14	2	3	12			62
x					1			1			1	3	6
y													0
$\Sigma$	364	12	73	317	19	101	379	42	121	191	7	3	1626

[18)\[19]

高 1

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	117	3	21	64	27	32	83	8	65	46	4	2	472
b	5	2	2	8	4	1	4	1	3	6		1	37
c	45	17	26	11	11	35	4	22	15				186
d	69	12	43	20	24	61	4	43	26		3		305
e	16	1	2	12	9	7	17		13	9	2	2	90
f	26	4	18	5	14	19		12	7	1	1		107
g	43	3	9	27	12	7	34	3	21	22	2		183
h	34	3	7	18	7		28	3	17	12			138
i	47	3	4	29	12	14	34	2	37	17	3		202
j	10	1	1	7	2	6	12	1	11	9			60
x													0
y												1	1
$\Sigma$	412	16	79	252	109	125	327	26	244	169	10	12	1781

高 2

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	111	3	15	64	15	32	79	9	45	45	5		423
b	5	1	1	4		1	3			1			16
c	36	2	13	16	6	13	27	2	17	12	1		145
d	80	2	13	55	15	27	63	5	37	33	2		332
e	9	1	1	8	4	2	10		10	7			52
f	23		5	15	5	11	18	3	9	8			97
g	54		5	35	9	16	41	8	20	29	3		220
h	34	1	2	25	5	9	33	6	13	16	2		146
i	39	1	6	27	7	5	31	2	40	18	2		178
j	11			7	2	2	6	1	4	6	2		41
x	5					1	2		2	2	3		15
y												1	2
$\Sigma$	407	11	61	256	68	119	313	36	197	177	21	2	1668

高 3

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	90	1	8	42	10	22	54	4	48	39	1		319
b	4	1	1	1	1	1	1		2	4			16
c	35	1	7	15	4	11	23	1	23	18			138
d	53		7	24	11	13	37	4	34	24			207
e	11		2	4	5	2	9	2	9	4			48
f	17	1	1	9	3	9	12	1	8	10			71
g	38		2	27	5	12	29	1	15	19			148
h	39	1	1	18	7	8	29	3	16	24			146
i	36		3	16	6	9	25	2	32	16			145
j	4			3	1	2	2	1	3	2			18
x													0
y													0
$\Sigma$	327	5	32	159	53	89	221	19	190	160	1		1256

[19] ソ連が、アメリカ合衆国と比較されるほどに発展してきた理由として重要と思われるものを、次の a～j の中から四つまで選んで下さい。

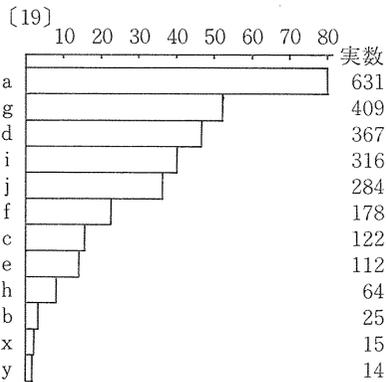
- a. 広大な国土と豊かな資源    b. 高い教育水準    c. すぐれた科学技術    d. 社会体制  
 e. 東欧諸国との分業関係    f. 豊富な労働力    g. 計画的な経済活動    h. 勤勉な国民性  
 i. 巨大な軍事力    j. 政治的団結（共産党中心）

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	103	94	97	118	116	103
b	5	8	3	5	3	1
c	33	23	19	22	16	9
d	44	49	84	72	72	46
e	26	16	5	31	19	15
f	36	21	26	36	33	26
g	38	23	100	94	90	64
h	10	20	11	8	10	5
i	48	51	32	73	55	57
j	47	40	52	49	52	44
x	1	2	2	4	6	0
y	3	3	0	5	2	1

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	86.6	79.7	80.2	72.8	80.6	82.4
b	4.2	6.8	2.5	3.1	2.1	0.8
c	27.7	19.5	15.7	13.6	11.1	7.2
d	37.0	41.5	69.4	44.4	50.0	36.8
e	21.8	13.6	4.1	19.1	13.2	12.0
f	30.3	17.8	21.5	22.2	22.9	20.8
g	31.9	19.5	82.6	58.0	62.5	51.2
h	8.4	16.9	9.1	4.9	6.9	4.0
i	40.3	43.2	26.4	45.1	38.2	45.6
j	39.5	33.9	43.0	30.2	36.1	35.2
x	0.8	1.7	1.7	2.5	4.2	—
y	2.5	2.5	—	3.1	1.4	0.8



[20] 「兎小屋に住む働き虫」とは、イギリス人の眼に映った日本の大衆のくらしぶりである。日本人のこのようなくらしぶりの原因として重要なものを、次のa～jの中から四つまで選んで下さい。

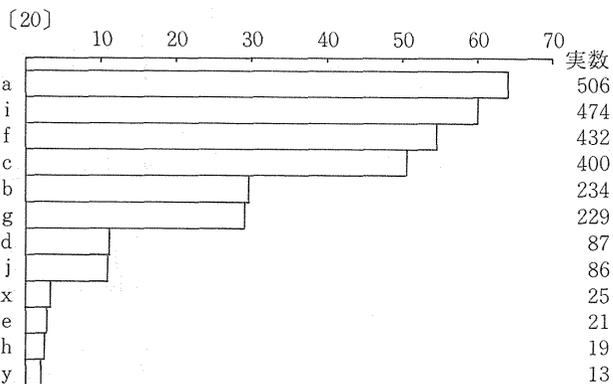
- a. 狭い国土 b. 資源の不足 c. 巨大な人口 d. 風土 e. 欧米より遅れた科学技術  
 f. 勤勉な国民性 g. 労働者の権利意識の低さ h. 企業の国際競争力の弱さ  
 i. 土地・住宅政策の貧困 j. 日本の貧しさ

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	88	72	82	101	91	72
b	46	32	28	40	46	42
c	73	57	60	79	76	55
d	7	22	18	17	12	11
e	3	8	1	6	2	1
f	65	68	81	85	68	65
g	17	26	64	49	48	25
h	5	5	3	1	2	3
i	71	58	79	97	97	72
j	15	14	11	19	13	14
x	4	4	3	6	6	2
y	0	3	0	4	3	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	73.9	61.0	67.8	62.3	63.2	57.6
b	38.7	27.0	23.1	24.7	31.9	33.6
c	61.3	48.3	49.6	48.8	52.8	44.0
d	5.9	18.6	14.9	10.5	8.3	8.8
e	2.5	6.8	0.8	3.7	1.4	0.8
f	54.6	57.6	66.9	52.5	47.2	52.0
g	14.3	22.0	52.9	30.2	33.3	20.0
h	4.2	4.2	2.5	0.6	1.4	2.4
i	59.7	49.2	65.3	59.9	67.4	57.6
j	12.6	11.9	9.1	11.7	9.0	11.2
x	3.4	3.4	2.5	3.7	4.2	1.6
y	—	2.5	—	2.5	2.1	2.4



[18]/[20]

中 1

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	85	45	70	6	3	63	16	5	68	15	3		379
b	3	3	2	1		4	1		2				16
c	34	18	33	2	3	29	9	4	35	5	1		173
d	42	25	37	2		26	8	1	35	8	1		185
e	11	4	6			9	2		6	1	1		40
f	25	12	21	3	1	17	3	1	16	5			104
g	29	13	20	2	1	17	7	3	24	6	2		124
h	28	13	22	5	1	29	8	2	22	5	1		136
i	35	19	32		2	27	5	2	29	6			157
j	17	12	12		1	9	4	1	14	3			73
x											1		1
y						1							1
$\Sigma$	309	164	255	21	12	231	63	19	251	54	10		1389

中 2

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	61	25	53	18	5	57	18	2	51	10	4	1	305
b	6	3	1	3		6	1	2	4	2		1	29
c	29	13	20	8	5	26	10	3	25	7	1	1	148
d	38	16	28	8	5	39	13	3	29	7	1	1	188
e	8	5	9	3	1	11	4	2	6	1			50
f	9	3	7	2	1	5	4	2	6	3	1	1	44
g	21	14	20	9	3	27	10	3	19	5	2	1	134
h	25	12	21	11	4	21	13		26	5	2	1	141
i	22	10	21	9	1	20	8	2	22	4	1		120
j	10	5	9	3	1	12	5		11	2	1		59
x											1		1
y												1	1
$\Sigma$	229	106	189	74	26	224	86	19	199	46	13	9	1220

中 3

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	75	27	55	17	1	73	58	3	73	10	2		394
b	3	1	2			3	2		3	1			15
c	32	12	23	6		34	27	1	29	4	2		170
d	59	23	44	11	1	52	42	2	55	8	2		299
e	23	10	19	2	1	21	16	2	21	5			120
f	18	9	22	2		23	18	2	19	3	1		117
g	33	11	23	8	1	29	30	1	34	4			174
h	27	8	14	8		30	20	1	26	1	2		137
i	27	5	22	7		24	17		28	3	1		134
j	10	2	6	3		14	8		11	2			56
x	1						1	1			1		4
y													0
$\Sigma$	308	108	230	64	4	304	239	12	299	41	10	1	1620

[18]/[20]

高 1

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	93	39	72	17	5	75	45	1	87	14	6	3	463
b	8	2	5	3	2	6	1		4	2	2		35
c	39	11	27	9	4	28	16		34	6	1	1	176
d	56	26	50	8	4	44	35	1	60	12	1	1	298
e	13	10	15	2	1	14	13		17	6	1	1	93
f	20	11	18	3	2	18	10		18	3			103
g	42	13	29	7	2	35	12		37	4	1		182
h	27	8	21	2	1	26	14	1	26	6	3		135
i	36	19	29	4	1	30	23		39	10	2		193
j	7	2	6	2	1	11	6		11	2	1	1	50
x													
y												1	1
$\Sigma$	341	141	272	57	23	287	175	3	333	65	17	9	1723

高 2

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	86	41	68	9		61	40	2	87	12	6	1	413
b	4	2	3			4	2	1	3	2			21
c	30	12	25	2		24	11	1	28	4		1	138
d	62	34	51	11	1	50	34	1	65	6	3	1	319
e	7	6	8	2		8	8		10				49
f	15	10	12	5		14	12		17	4	1		90
g	46	19	35	6		31	23	1	47	5	3		216
h	27	9	31	3		21	17		28	5	2		143
i	30	18	24	7		26	18		39	2	2		166
j	8	4	5			4	7		11		1		40
x	4	3	1			1	3		2		2		16
y		1			1	1			1		2		6
$\Sigma$	319	159	263	45	2	245	175	6	337	41	19	6	1617

高 3

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	x	y	$\Sigma$
a	66	37	49	9	1	58	22	2	64	10	1	3	322
b	4	1	4	1		2		1	3				16
c	30	17	24	2		22	8		29	2	1		135
d	35	24	28	5	1	37	15	3	45	9	1	1	204
e	3	6	8	4	1	10	6	1	7	3			49
f	12	6	10	2		11	3		12	1	2	2	61
g	30	17	19	3	1	30	10	1	28	7	2		148
h	28	13	19	7	1	26	10	2	27	5	1	2	141
i	24	18	21	3		23	13	1	35	5			143
j	5	1	5	2		4			1				18
x													
y													
$\Sigma$	237	140	187	38	5	223	87	11	251	42	8	8	1237

[21] 最近、日本とアメリカ合衆国の間でオレンジの貿易をめぐる意見のちがいがありました。次の a～h の意見のうち賛成できるものがあつたら、三つまで選んで下さい。

- a. 貿易というのは、商品の余っている国から不足している国へ、あたかも水の流れるように商品が動くことだから、それほど重要な問題ではない。
- b. 安いオレンジの輸入で、ミカンも安くなるのに反対するのはミカン農家のエゴだ。
- c. 安いオレンジの輸入によって、日本のミカンの生産も合理化され、国際競争力がつく。
- d. オレンジの輸入に制限をつければ、工業製品の輸出に制限がつけられる恐れがある。
- e. 日本のミカン農家の経営をおびやかさない範囲で輸入をふやす必要がある。
- f. 自由な貿易は、どの国にとっても利益になるので、貿易についての制限は徐々になくすべきである。
- g. 安い農産物の輸入はよいことなので、長期にわたって安定した供給を求める必要がある。
- h. 狭い国土を高度に利用するために農地を縮小するほうがよい。

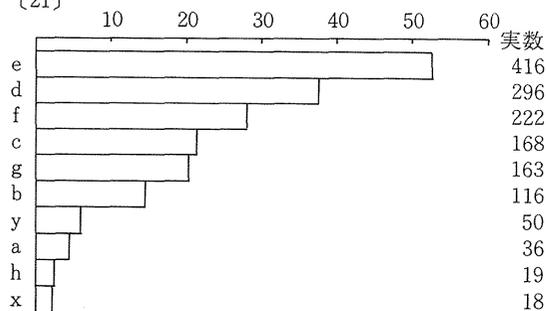
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	9	7	5	9	4	2
b	20	22	18	16	26	14
c	22	26	31	34	33	22
d	42	45	53	64	47	45
e	70	53	75	82	73	63
f	37	31	42	39	44	29
g	29	22	30	24	33	25
h	2	5	3	4	3	2
x	4	2	1	5	5	1
y	9	10	2	12	9	8

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	7.6	5.9	4.1	5.6	4.2	1.6
b	16.8	18.6	14.9	9.9	18.1	11.2
c	18.5	22.0	25.6	21.0	22.9	17.6
d	35.3	38.1	43.8	39.5	32.6	36.0
e	58.8	44.9	62.0	50.6	50.7	50.4
f	31.1	26.3	34.7	24.1	30.6	23.2
g	24.4	18.6	24.8	14.8	22.9	20.0
h	1.7	4.2	2.5	2.5	2.1	1.6
x	3.4	1.7	0.8	3.1	3.5	0.8
y	7.6	8.5	1.7	7.4	6.3	6.4

[21]



[22] あなたが将来定住したい所を、次の中から一つ選んで下さい。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
北海道	7	8	15	21	19	17
青森	0	0	1	0	0	0
岩手	4	3	2	3	2	3
宮城	1	1	2	1	1	2
秋田	1	1	1	1	1	0
山形	1	1	2	3	0	0
福島	1	2	1	2	0	1
茨城	1	0	2	3	1	1
栃木	0	0	0	1	0	0
群馬	2	1	1	4	0	0
埼玉	2	0	0	3	2	2
千葉	6	5	0	2	3	0
東京都	28	32	44	52	53	52
神奈川県	19	7	4	9	14	9
新潟	1	3	1	1	0	0
富山	0	1	1	0	0	1
石川	3	1	0	2	2	2
福井	0	1	0	0	0	0
山梨	1	0	1	0	1	1
長野	3	6	7	4	3	2
岐阜	1	2	2	2	0	2
静岡県	7	5	2	4	0	0
愛知県	1	3	0	3	1	2
三重	0	0	1	0	0	0
滋賀	0	1	0	0	1	0
京都	5	2	2	3	11	9
大阪	0	1	2	3	0	0
兵庫県	2	2	2	1	2	1
奈良	2	0	0	4	1	3
和歌山	3	1	0	3	0	1
鳥取	1	2	0	3	1	0
島根	0	2	0	0	0	0
岡山	0	3	1	3	1	0
広島	1	2	1	4	4	2
山口	2	1	0	3	2	1
徳島	1	0	0	0	1	0
香川	0	1	0	2	0	1
愛媛	2	0	0	1	0	1
高知	2	2	1	1	0	2
福岡	0	0	0	0	0	1
佐賀	2	0	0	0	0	1
長崎	2	0	0	2	1	0
熊本	0	0	1	0	0	0
大分	1	0	0	1	0	0
宮崎	0	2	0	2	1	1
鹿児島	2	2	3	2	0	1
沖縄	1	0	1	0	1	0
外国(先進資本主義)	24	25	18	22	21	11
外国(途上国)	1	2	4	5	4	2
外国(社会主義)	1	3	1	3	0	2
x	2	2	0	0	3	0
y	5	2	3	14	5	8

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
北海道	5.9	6.8	12.4	13.0	13.2	13.6
青森	—	—	0.8	—	—	—
岩手	3.4	2.5	1.7	1.9	1.4	2.4
宮城	0.8	0.8	1.7	0.6	0.7	1.6
秋田	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7	—
山形	0.8	0.8	1.7	1.9	—	—
福島	0.8	1.7	0.8	1.2	—	0.8
茨城	0.8	—	1.7	1.9	0.7	0.8
栃木	—	—	—	0.6	—	—
群馬	1.7	0.8	0.8	2.5	—	—
埼玉	1.7	—	—	1.9	1.4	1.6
千葉	5.0	4.2	—	1.2	2.1	—
東京都	23.5	27.1	36.4	32.1	36.8	41.6
神奈川県	16.0	5.9	3.3	5.6	9.7	7.2
新潟	0.8	2.5	0.8	0.6	—	—
富山	—	0.8	0.8	—	—	0.8
石川	2.5	0.8	—	1.2	1.4	1.6
福井	—	0.8	—	—	—	—
山梨	0.8	—	—	—	—	—
長野	2.5	5.1	5.8	2.5	2.1	1.6
岐阜	0.8	1.7	1.7	1.2	—	1.6
静岡県	5.9	5.1	1.7	2.5	—	—
愛知県	0.8	2.5	—	1.9	0.7	1.6
三重	—	—	0.8	—	—	—
滋賀	—	0.8	—	—	0.7	—
京都	4.2	1.7	1.7	1.9	7.6	7.2
大阪	—	0.8	1.7	1.9	—	—
兵庫県	1.7	1.7	1.7	0.6	1.4	0.8
奈良	1.7	—	—	2.5	0.7	2.4
和歌山	2.5	0.8	—	1.9	—	0.8
鳥取	0.8	1.7	—	1.9	0.7	—
島根	—	1.7	—	—	—	—
岡山	—	2.5	0.8	1.9	0.7	—
広島	0.8	1.7	0.8	2.5	2.8	1.6
山口	1.7	0.8	—	1.9	1.4	0.8
徳島	0.8	—	—	—	0.7	—
香川	—	0.8	—	1.2	—	0.8
愛媛	1.7	—	—	0.6	—	0.8
高知	1.7	1.7	0.8	0.6	—	1.6
福岡	—	—	—	—	—	1.8
佐賀	1.7	—	—	—	—	0.8
長崎	1.7	—	—	1.2	0.7	—
熊本	—	—	0.8	—	—	—
大分	0.8	—	—	0.6	—	—
宮崎	—	1.7	—	1.2	0.7	0.8
鹿児島	1.7	1.7	0.5	1.2	—	0.8
沖縄	0.8	—	0.8	—	0.7	—
外国(先進資本主義)	20.2	21.2	14.9	13.6	14.6	8.8
外国(途上国)	0.8	1.7	3.3	3.1	2.8	1.6
外国(社会主義)	0.8	2.5	0.8	1.9	—	1.6
x	1.7	1.7	—	—	2.1	—
y	4.2	1.7	2.5	8.6	3.5	6.4

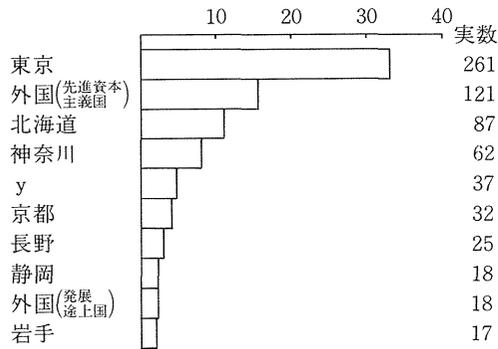
〔22〕〔23〕（中学）

	大都市	郊外	中小都市	海岸	平野	河川沿	山村	雪国	その他	無答	Σ
北海道		3	2	2	4	3	1	10	3		28
青森		1	1					1			11
岩手	6	1	1	2				1			5
宮城	1	2	1					1			3
秋田		2				1					
山形		1		1			1	1			4
福島							1	1			3
茨城		3									4
栃木											0
群馬		1			1		2				4
埼玉		1	1								2
千葉		5	3	3	1						9
東京都	61	35	3								100
神奈川県	2	21	3	1				2			29
新潟	1	1	1					2	1		6
富山		1	1			1					3
石川			1		1		1				4
福井					1						0
山梨		1	4			1	6	2	1		15
長野									1		1
岐阜		4	2	4	1				1		12
静岡県	2	2									4
愛知県		1				1					2
三重	1										1
京都	2	3	1		1				2		9
大阪	1	2									3
兵庫		3	1	1				1	1		7
奈良		1	1								2
和歌山		2				2					4
鳥取	1			1	1		1				4
島根	1	1									2
岡山		1	1	1	1						4
広島	1	1	1				1				3
山口		1	1								3
徳島								1			1
香川								1			0
愛媛					1			1			3
高知		1	1	1							4
福岡									1		0
佐賀	1			1					1		3
長崎		2									2
熊本		1					1				2
大宮							1		1		1
鹿児島			4	3				1			8
沖縄					1						1
外国(資)	11	32	8	3	4	5			3		66
外国(途)			2			2		1	1		6
外国(社)	1		2		1		1				5
その他											2
無答											9
Σ	93	140	41	30	21	16	23	24	22		

〔22〕〔23〕（高校）

	大都市	郊外	中小都市	海岸	平野	河川沿	山村	雪国	その他	無答	Σ
北海道	3	13	7	2	13		6	8	4		56
青森		1									0
岩手	4	1				1	2				8
宮城		3									3
秋田		1		1							2
山形		2		1							3
福島		1	1				1				3
茨城		3			1		1				5
栃木			1								1
群馬	1	1	1		1		1				4
埼玉	1	4	1								7
千葉	1	3			1						5
東京都	96	50	3	2							153
神奈川県	1	25	2	1	1	1			1		32
新潟							1		1		2
富山			1								1
石川			2	1	2			1			6
福井											0
山梨		1	1								1
長野	1		1	2	1	3					9
岐阜			1	1					1		3
静岡県		1	1	1							3
愛知県		2	1		1						5
三重							1				0
京都	4	10	4	1	1						23
大阪	2	1									3
兵庫	1	2			1						4
奈良		3	2		2						7
和歌山		1	2	1							4
鳥取	1		1	1					1		4
島根											0
岡山	1	2									3
広島	4	3	1	1					1		10
山口	1	1	2		1						5
徳島						1					1
香川			1								2
愛媛			1		1						2
高知		1	1	1							3
福岡											1
佐賀					1						1
長崎		1	1	1							3
熊本											0
大宮							1				1
鹿児島		1	1								4
沖縄											2
外国(資)	5	43	2		2	1					54
外国(途)	1		2	1	1	1	5				11
外国(社)	1	1			2						4
その他											
無答											
Σ	135	191	50	20	35	9	21	9	9		

〔22〕 ベストテン



〔23〕 前問で選んだ所を、次のように区分した場合、どれにあてはまりますか。一つ選んで下さい。

- a. 大都会   b. 大都市の郊外   c. 中・小都市   d. 海岸の町村   e. 平野部の町村  
f. 大きな川のある町村   g. 山奥の町村   h. 雪国

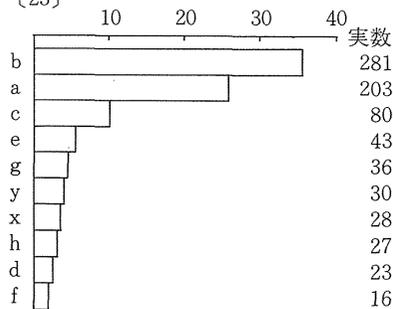
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	26	29	32	37	40	39
b	44	38	37	52	62	48
c	12	12	17	22	9	8
d	7	4	3	3	4	2
e	8	6	2	11	9	7
f	2	5	4	1	3	1
g	2	7	6	15	3	3
h	2	5	10	5	2	3
x	11	2	3	4	5	3
y	5	2	2	9	4	8

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	21.8	24.6	26.4	22.8	27.8	31.2
b	37.0	32.2	30.6	32.1	43.1	38.4
c	10.1	10.2	14.0	13.6	6.3	6.4
d	5.9	3.4	2.5	1.9	2.8	1.6
e	6.7	5.1	1.7	6.8	6.3	5.6
f	1.7	4.2	3.3	0.6	2.1	0.8
g	1.7	5.9	5.0	9.3	2.1	2.4
h	1.7	4.2	8.3	3.1	1.4	2.4
x	9.2	1.7	2.5	2.5	3.5	2.4
y	4.2	1.7	1.7	5.6	2.8	6.4

〔23〕



[24] 「有事立法」がマスコミの話題になってから久しくなりますが、政府の中には「日本の領土に近接しているところに紛争が起きた場合」(衆議院内閣委員会での答弁)などを想定し、軍事的な効果をあげるため、国民が基本的人権の「ある程度の規制・制約は甘受(甘んじて受け入れる)」(衆議院内閣委員会での答弁)してくれることを期待して、法律をつくろうとする動きもあるようです。これについてあなたが思うことにもっとも近いものを一つ選んで下さい。

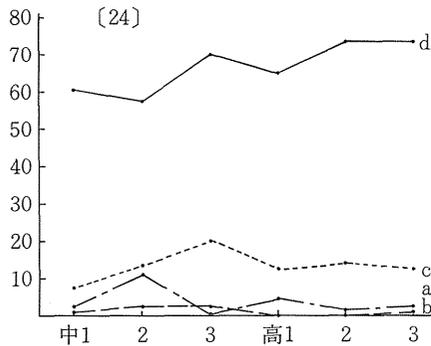
- a. 紛争が起きる心配はないのに、人権を制約するような法律をつくるのはおかしい。
- b. 紛争が起きる心配はないから、自由だ権利だと騒ぐのはおかしい。
- c. 国を守るために、言論・表現の自由などが制約されるのはやむをえない。
- d. 「有事」を口実にして、自由や権利を制約することなど、やってはならない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	3	13	1	7	2	3
b	2	3	3	0	0	1
c	9	16	24	20	20	16
d	72	68	85	105	106	92
x	10	10	3	9	6	7
y	22	6	3	19	8	5

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	2.5	11.0	0.8	4.3	1.4	2.4
b	1.7	2.5	2.5	—	—	0.8
c	7.6	13.6	19.8	12.3	13.9	12.8
d	60.5	57.6	70.2	64.8	73.6	73.6
x	8.4	8.5	2.5	5.6	4.2	5.6
y	18.5	5.1	2.5	11.7	5.6	4.0



[24]\{25}

中 1

	a	b	c	d	x	y	
a	1	0	0	2	0	0	3
b	1	1	0	0	0	0	2
c	4	1	0	3	0	1	9
d	15	5	8	25	5	14	72
x	0	0	0	6	1	2	9
y	4	1	3	3	2	9	22
	25	8	11	39	8	26	117

中 2

	a	b	c	d	x	y	
a	4	7	0	2	0	0	13
b	0	1	1	1	0	0	3
c	6	1	2	7	0	0	16
d	22	2	5	29	2	8	68
x	2	1	0	4	2	1	10
y	1	0	0	0	0	5	6
	35	12	8	43	4	14	116

中 3

	a	b	c	d	x	y	
a	0	0	0	1	0	0	1
b	1	1	0	1	0	0	3
c	1	3	8	12	0	0	24
d	21	4	8	49	2	0	84
x	1	0	0	1	1	0	3
y	0	0	1	2	0	0	3
	24	8	17	66	3	0	118

[24]\{25}

高 1

	a	b	c	d	x	y	
a	1	2	2	2	0	0	7
b	0	0	0	0	0	0	0
c	8	3	6	3	0	0	20
d	31	4	10	53	4	3	105
x	1	0	0	4	3	1	9
y	1	0	1	10	1	6	19
	42	9	19	72	8	10	160

高 2

	a	b	c	d	x	y	
a	0	0	1	1	0	0	2
b	0	0	0	0	0	0	0
c	3	1	3	10	1	2	20
d	17	1	9	71	5	3	106
x	3	0	0	2	0	1	6
y	2	1	0	3	1	1	8
	25	3	13	87	7	7	142

高 3

	a	b	c	d	x	y	
a	2	0	0	0	0	0	2
b	1	0	0	0	0	0	1
c	3	1	0	11	1	0	16
d	29	4	4	48	1	5	91
x	4	0	2	0	0	1	7
y	0	0	0	2	0	3	5
	39	5	6	61	2	9	122

[25] 独占価格についてあなたが感じていることにもっとも近いものを一つ選んで下さい。

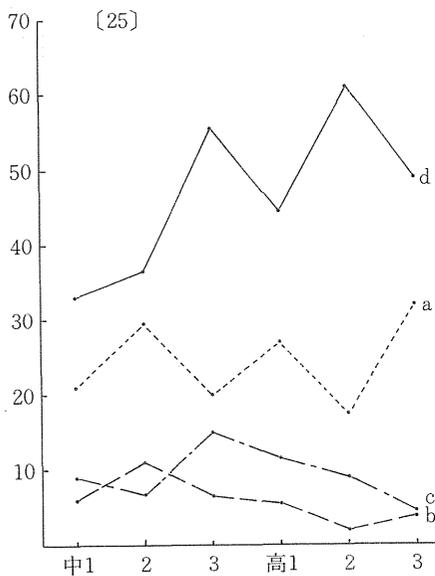
- a. 独占禁止法で値だんのつり上げを取り締ってほしい。
- b. 大企業のもうけを制限してしまつて、日本の国際競争力を低下させるのはまずい。
- c. 独占価格を厳しく取り締ると、大企業の経営が不安定になつて景気を悪化させるのではないか。
- d. 企業の秘密を制限し、少なくとも原価を公開させるところまでいかないと、問題が解決しない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	25	35	24	44	25	40
b	8	13	8	9	3	5
c	11	8	18	19	13	6
d	39	43	67	72	88	61
x	10	4	3	8	8	2
y	26	14	0	10	7	9

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	21.0	29.7	19.8	27.2	17.4	32.0
b	6.7	11.0	6.6	5.6	2.1	4.0
c	9.2	6.8	14.9	11.7	9.0	4.8
d	32.8	36.4	55.4	44.4	61.1	48.8
x	8.4	3.4	2.5	4.9	5.6	1.6
y	21.8	11.9	—	6.2	4.9	7.2



[26] 間接税というのは、負担していてもあまり自覚されていないと、いわれています。レコード・トランプ・砂糖・コーラ・映画やプロ野球の入場券などは、わりとよく知られているほうかもしれませんが。ところで、この間接税を特定の商品だけでなくすべての商品にかければ、財政の赤字が解消され、福祉にまわす予算もふえて、好ましいという声がありますが、これについてあなたが思うことにもっとも近いものを一つ選んで下さい。

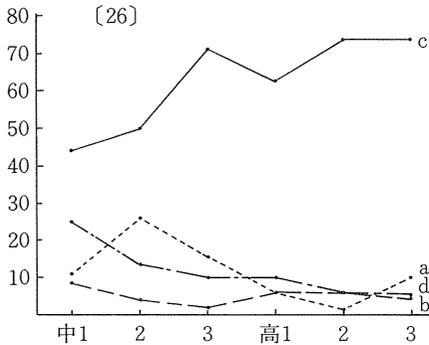
- a. 負担が重くなるのはいやだが、福祉の予算をふやすためならば、やむをえないと思う。
- b. 日本人の所得も相当高くなったから、間接税をふやしてもよいと思う。
- c. 所得の低い人ほど税金の負担率が高くなるようなことはやめて、所得の高い人や大企業に負担してもらうようにしたほうがよいと思う。
- d. 税金から受ける恩恵は平等だから、負担の平等な間接税ほど公平だと思う。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	13	25	19	11	2	12
b	10	5	2	10	9	6
c	52	59	86	101	106	92
d	30	16	12	16	9	7
x	6	7	2	12	13	5
y	8	5	0	11	5	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	10.9	21.2	15.7	6.8	1.4	9.6
b	8.4	4.2	1.7	6.2	6.3	4.8
c	43.7	50.0	71.1	62.3	73.6	73.6
d	25.2	13.6	9.9	9.9	6.3	5.6
x	5.0	5.9	1.7	7.4	9.0	4.0
y	6.7	4.2	—	6.8	3.5	2.4



[27] 若者は年配者よりも政治にたいする不信感が強いといわれます。

あなたの気持ちに近いものを二つ以内で選んで下さい。

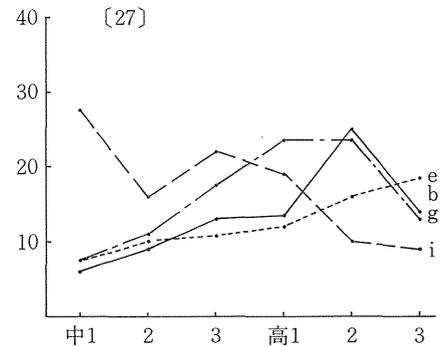
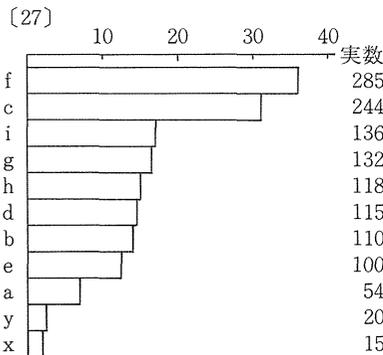
- a. 不信感をもっている人もいるようだが、自分としては感じない。
- b. いまの政治は大企業優先で、国民を犠牲にしている。
- c. ロッキード事件やダグラス・グラマン事件のように、政治が私腹をこやすために行われている。
- d. 国民の側をむいているのかどうかわからないようないまの政治なのに、自分たちの行動では変えられそうもない。
- e. 革新的な野党が無力なので、変革の展望がもてない。
- f. 汚職をやったような議員を、地元の利益を優先させて、また当選させるような人たちにあいそがつきる。
- g. 多くの国民が、どうせ変りっこないと、政治にあきらめを感じている。
- h. 国民の大多数は民主主義をになうにふさわしい能力を身につけていない。
- i. 民主主義の世の中といっても、国民の大部分が満足するような政治は期待できない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	7	13	6	14	5	9
b	7	11	16	22	36	18
c	40	39	35	45	39	46
d	14	18	21	23	22	17
e	9	12	13	20	23	23
f	40	39	50	52	62	42
g	9	13	21	38	34	17
h	13	6	18	29	23	29
i	33	20	27	31	14	11
x	4	5	0	2	2	2
y	8	5	0	3	1	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	5.9	11.0	5.0	8.6	3.5	7.2
b	5.9	9.3	13.2	13.6	25.0	14.4
c	33.6	33.1	28.9	27.8	27.1	36.8
d	11.8	15.3	17.4	14.2	15.3	13.6
e	7.6	10.2	10.7	12.3	16.0	18.4
f	33.6	33.1	41.3	32.1	43.1	33.6
g	7.6	11.0	17.4	23.5	23.6	13.6
h	10.9	5.1	14.9	17.9	16.0	23.2
i	27.7	16.9	22.3	19.1	9.7	8.8
x	3.4	4.2	—	1.2	1.4	1.6
y	6.7	4.2	—	1.9	0.7	2.4



[28] いまの日本を実際に動かしている力は何だと思えますか。一番大きな力だと思えるものを一つだけ選んで下さい。

- a. 選挙 b. 政党 c. 大衆運動 d. 国民の世論 e. 官僚 f. 財界 g. 圧力団体  
h. 外国の圧力

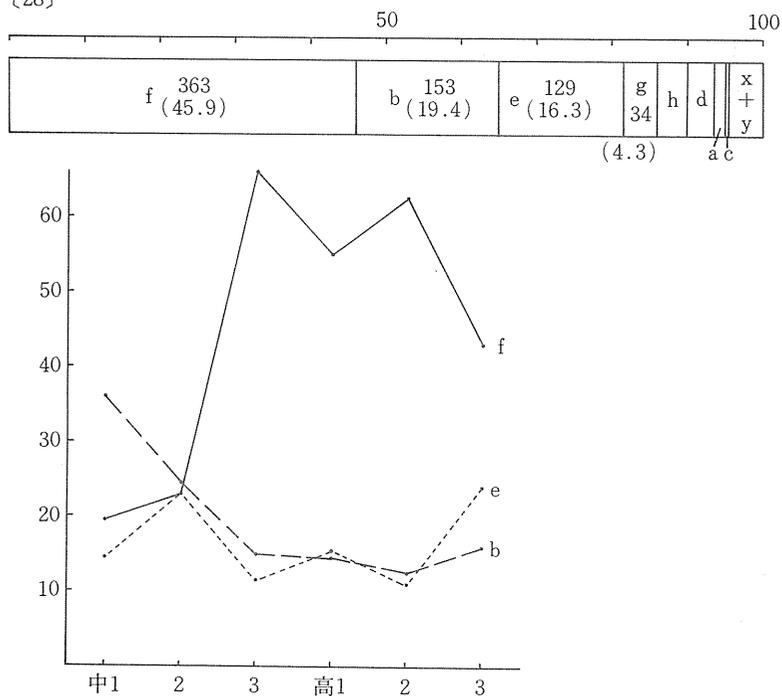
(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	3	3	1	1	2	1
b	43	29	18	24	18	21
c	3	1	1	0	0	0
d	9	11	1	1	4	2
e	17	27	14	25	16	30
f	23	27	80	89	90	54
g	4	6	6	7	3	8
h	6	6	2	5	9	4
x	3	2	0	4	2	2
y	7	5	1	7	3	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	2.5	2.5	0.8	0.6	1.4	0.8
b	36.1	24.6	14.9	14.8	12.5	16.8
c	2.5	0.8	0.8	—	—	—
d	7.6	9.3	0.8	0.6	2.8	1.6
e	14.3	22.9	11.6	15.4	11.1	24.0
f	19.3	22.9	66.1	54.9	62.5	43.2
g	3.4	5.1	5.0	4.3	2.1	6.4
h	5.0	5.1	1.7	3.1	6.3	3.2
x	2.5	1.7	—	2.5	1.4	1.6
y	5.9	4.2	0.8	4.3	2.1	2.4

[28]



[27)\(28]

中1

	a	b	c	d	e	f	g	h	x	y	
a	0	4	0	0	2	1	0	0	0	0	7
b	0	0	0	1	3	3	0	0	0	0	7
c	0	17	1	3	9	7	1	1	1	0	40
d	0	3	1	2	2	3	1	1	0	2	15
e	0	4	0	0	1	3	0	0	0	1	9
f	1	19	1	3	4	3	1	0	1	1	42
g	1	0	0	2	3	3	0	0	0	0	9
h	1	5	0	0	2	3	0	2	0	0	13
i	2	10	2	2	3	6	0	4	2	2	33
x	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	4
y	0	4	0	1	0	0	1	0	0	3	9
	5	69	5	14	29	39	6	9	3	9	188

中2

	a	b	c	d	e	f	g	h	x	y	
a	0	5	0	2	1	4	0	0	0	1	13
b	2	1	1	1	3	2	1	0	0	0	11
c	1	8	0	3	10	10	4	2	2	0	40
d	0	5	0	1	6	4	1	1	0	0	18
e	0	5	0	1	1	3	4	0	0	0	13
f	0	12	0	3	13	8	2	1	0	0	39
g	0	4	1	1	0	5	2	0	1	0	14
h	0	0	0	1	3	1	1	0	0	0	6
i	0	7	0	1	5	4	1	1	1	0	20
x	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	5
y	1	0	0	1	0	0	0	1	0	3	6
	4	47	2	15	46	43	12	8	4	4	185

中3

	a	b	c	d	e	f	g	h	x	y	
a		4				2					6
b		1		1	1	13	1				17
c		5		1	3	26	1	1			37
d		2	1		2	15	1				21
e		4			3	6	1				14
f	1	4			8	35	3	1			52
g		3	1		3	16	3				26
h		4			3	14	1	1			23
i	1	4			1	18	1	1		1	27
x											0
y											0
	2	31	2	2	24	145	12	4	0	1	223

[27)\(28]

高1

	a	b	c	d	e	f	g	h	x	y	
a		3			3	5	1	1		1	14
b		2			4	14	1	1		1	23
c		9			8	25	2		1	1	46
d		3			5	14	1				23
e		1				15	1		3	1	21
f	1	4			9	29	3	3	1	2	52
g		7			6	22		1	1	2	39
h	1	5			7	12	1		1	2	29
i		7			2	22		2	1		34
x				1	1						2
y		1					1			1	3
	2	42	0	1	45	158	11	8	8	11	286

高2

	a	b	c	d	e	f	g	h	x	y	
a		2			1	2					5
b	1	2		2	2	26	2	1		1	37
c	1	4		3	2	24	1	4	1		40
d		1			3	15		2		1	22
e		5			2	16	1	1			25
f	1	8		1	6	40	1	4	1	1	63
g		6		2	4	21		2	1	1	37
h		3			3	16		2			24
i		1			2	9		2	1		15
x					1	1					2
y					1						1
	3	32	0	8	27	170	5	18	4	4	271

高3

	a	b	c	d	e	f	g	h	x	y	
a	1			1	2	2	2				8
b		1		1	4	11		1			18
c		13			13	17	2	1			46
d		1		1	4	10			1		17
e		6			4	9	1	2	1		23
f		9			7	20	3	1	1	1	42
g		1		1	7	7	1				17
h		5			6	15		3			29
i					4	4	2		1		11
x						1				1	2
y						2				1	3
	1	36	0	4	51	98	11	8	4	3	216

[29] マスコミは一方的な情報の伝達をするといわれることがあります。日本のマスコミについてあなたが感じていることを a～e と f～j の中からそれぞれ一つずつ選んで下さい。

- a. 大衆の中にある低俗な気持に迎合する傾向がある。
- b. 資本主義体制の維持に有利な傾向をもつ。
- c. ときの政府にへつらう傾向がある。
- d. 反政府的な傾向が強い。
- e. 公正中立に報道している。
- f. 危険性を感じるが、改善させることはできそうもない。
- g. 危険性を感じるので、市民的な抵抗の運動が必要だと思う。
- h. 多くの人はおしながされてしまうと思うが、自分には自覚がある。
- i. かたよりがあっても、国民の大部分は健全な判断力をもっているから、それほど心配する必要はない。
- j. いまの状態を変える必要はない。

(実数)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	24	39	40	73	79	66
b	8	13	29	12	10	16
c	10	10	17	19	10	15
d	24	13	7	10	12	6
e	19	14	21	13	11	7
x	7	3	1	7	8	7
y	19	15	3	17	7	4

(実数)

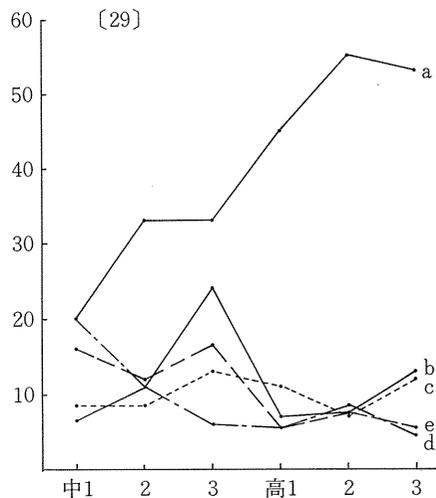
	中1	中2	中3	高1	高2	高3
f	16	28	19	34	28	31
g	20	21	21	35	29	26
h	8	10	22	33	43	32
i	20	18	29	21	9	10
j	20	16	21	14	16	15
x	4	6	1	8	4	3
y	20	13	1	13	9	3

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	20.2	33.1	33.1	45.1	54.9	52.8
b	6.7	11.0	24.0	7.4	6.9	12.8
c	8.4	8.5	14.0	11.7	6.9	12.0
d	20.2	11.0	5.8	6.2	8.3	4.8
e	16.0	11.9	17.4	6.2	7.6	5.6
x	5.9	2.5	0.8	4.3	5.6	5.6
y	16.0	12.7	2.5	10.5	4.9	3.2

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
f	13.4	23.7	15.7	21.0	19.4	24.8
g	16.8	17.8	17.4	21.6	20.1	20.8
h	6.7	8.5	18.2	20.4	29.9	25.6
i	16.8	15.3	24.0	13.0	6.3	8.0
j	16.8	13.6	17.4	8.6	11.1	12.0
x	3.4	5.1	0.8	4.9	2.8	2.4
y	16.8	11.0	0.8	8.0	6.3	2.4



(29)a·b·c·d·e\{(29)f·g·h·i·j

中1

119	f	g	h	i	j	x	y	
a	3	7	2	6	2	1	1	22
b	2	2	0	3	0	1	0	8
c	4	1	0	1	2	0	2	10
d	5	5	3	5	2	0	2	22
e	1	3	2	3	10	0	0	19
x	0	1	1	0	2	2	1	7
y	0	1	0	0	1	0	14	16
	15	20	8	18	19	4	20	104

中2

118	f	g	h	i	j	x	y	
a	13	11	3	6	2	1	2	38
b	3	1	3	3	1	2	0	13
c	3	4	0	3	0	0	0	10
d	4	3	1	2	2	0	1	13
e	2	0	2	1	8	0	0	13
x	0	0	0	0	0	2	0	2
y	0	1	1	1	0	1	10	14
	25	20	10	16	13	6	13	103

中3

121	f	g	h	i	j	x	y	
a	6	7	10	8	6	1	0	38
b	5	9	3	7	3	0	0	27
c	5	3	5	3	1	0	0	17
d	2	0	0	5	0	0	0	7
e	1	1	2	6	11	0	0	21
x	0	1	0	0	0	0	0	1
y	0	0	2	0	0	0	1	3
	19	21	22	29	21	1	1	114

(29)a·b·c·d·e\{(29)f·g·h·i·j

高1

162	f	g	h	i	j	x	y	
a	16	21	19	7	2	4	2	71
b	4	1	2	0	3	1	1	12
c	5	3	6	2	2	0	0	18
d	2	2	3	2	1	0	0	10
e	0	3	2	4	3	0	1	13
x	1	3	1	0	0	3	0	8
y	4	0	0	3	0	0	9	16
	32	33	33	18	11	8	13	148

高2

144	f	g	h	i	j	x	y	
a	15	22	28	2	5	1	4	77
b	4	3	2	0	0	1	0	10
c	3	1	3	3	0	0	0	10
d	3	0	4	4	1	0	0	12
e	1	0	2	0	8	0	0	11
x	1	3	3	0	0	1	0	8
y	0	0	0	0	1	1	5	7
	27	29	42	9	15	4	9	135

高3

125	f	g	h	i	j	x	y	
a	16	15	24	2	3	2	2	64
b	3	4	4	2	1	0	0	14
c	5	4	1	3	2	0	0	15
d	2	2	1	0	1	0	0	6
e	1	0	2	0	4	0	0	7
x	2	1	0	0	3	1	0	7
y	1	0	0	2	0	0	1	4
	30	26	32	9	14	3	3	117

[30] 戦前のドイツや日本でみられたように、ファッショ的な政治は民主主義を守ろうとする人たちの人権を奪い、民主主義とまっこうから対立しました。もし、そのような時代がやってきたらあなたはどうしますか。あなたの気持ちに近いものを一つだけ選んで下さい。

- a. いまのような民主主義の世の中では、再来は考えられない。
- b. そのような時代がやってきたとしても、庶民の大部分にとって大した意味はもたないと思う。
- c. そのようなことが身近かで起れば、抵抗する人たちになんらかの協力をしたい。
- d. 抵抗することは勇敢だとは思いますが、自分を犠牲にするような危険な行動はとれない。
- e. 民主主義の伝統の弱い日本では、どんな抵抗も結局おしつぶされてしまうと思う。
- f. いまの時代に必要なことは衆愚政治ではなく、優れた者による指導だと思う。
- g. 社会主義になるより、そういう時代のほうがまだましだと思う。

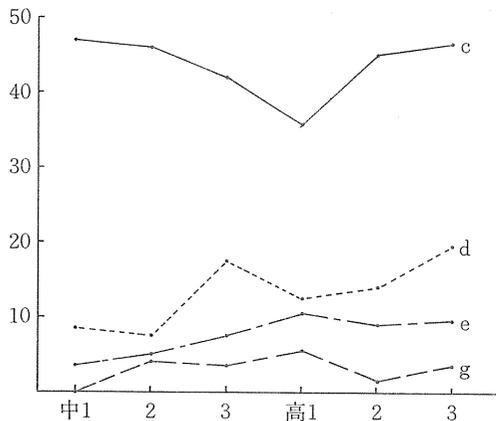
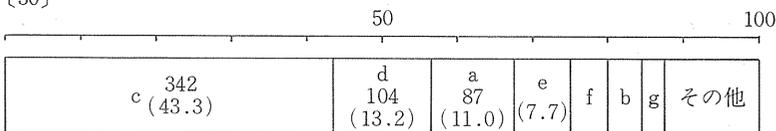
(実数)

(%)

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	14	15	15	19	10	14
b	6	13	6	2	4	4
c	56	54	51	58	65	58
d	10	9	21	20	20	24
e	4	6	9	17	13	12
f	5	4	7	7	13	3
g	0	5	4	9	2	4
x	8	3	1	12	9	2
y	11	5	1	15	4	3

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
a	11.8	12.7	12.4	11.9	6.9	11.2
b	5.0	11.0	5.0	1.2	2.8	3.2
c	47.1	45.8	42.1	35.8	45.1	46.4
d	8.4	7.6	17.4	12.3	13.9	19.2
e	3.4	5.1	7.4	10.5	9.0	9.6
f	4.2	3.4	5.8	4.3	9.0	2.4
g	—	4.2	3.3	5.6	1.4	3.2
x	6.7	2.5	0.8	7.4	6.3	1.6
y	9.2	4.2	0.8	9.3	2.8	2.4

[30]



{27}\{30}

中 1

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	2	1	2	1					1	7
b	1		6							7
c	1	1	20	5	3	3		1	4	38
d	2		8	1				1	2	14
e	3	2	3						1	9
f	4	1	23	4	1	3			4	40
g	2		5	1				1		9
h	2	2	5	2		1		1		13
i	2	1	20	2	1	1		5	1	33
x			1		1			1	1	4
y	2		2					1	3	8
	21	8	95	16	6	8	0	11	17	182

中 2

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	2	4	5	1					1	13
b	1	1	6		1					10
c	5	2	22	6			1	1	1	38
d	3	2	8	1		1	1	1		17
e	1		8	1			2			12
f	4	7	21		2	1		2	1	38
g	1	1	5	3	1	1			1	13
h		1	2	1	1	1				6
i	2	1	7	1	3	2		2	1	19
x			3				2			5
y	3		1						1	5
	22	19	88	14	8	6	6	6	7	176

中 3

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	2			3			1			6
b	1		11	2	1	1				16
c	4	1	17	5	2	4	2			35
d	5	1	7	5	1		1			20
e	3	1	6	1						11
f	5	3	22	9	5	3	2	1		50
g		2	13	5	3	1		1		25
h	2		7	1	4	4				18
i	3	3	12	5	1		1		1	26
x										0
y										0
	25	11	95	36	17	13	7	2	1	207

{27}\{30}

高 1

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	2	1	4	3			2	1		13
b	3		10	2	4			1	2	22
c	3		21	6	1	5	3	3	3	45
d	3		9	1	3	2	1	2	2	23
e	2		10	2	3			2	1	20
f	5		20	8	6	4	4	2	3	52
g	3	2	10	5	7	1	4	4	2	38
h	2		9	1	7	1	2	3	4	29
i	5	1	10	8	2		1	2	2	31
x								1	1	2
y	1								2	3
	29	14	103	36	33	13	17	21	22	278

高 2

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	2		2	2	1					5
b	1	1	23	2	1	2		5		35
c	1		19	5	3	4	2	3	1	38
d	1	1	6	4	4	4		1	1	22
e	1	2	12	2		1		4		22
f	6	1	35	6	2	4	2	2	3	61
g	5	2	12	4	4	5			1	33
h	3	1	6	4	4	3		2		23
i	1		5	3	4			1		14
x			1			1				2
y									1	1
	19	8	121	32	23	24	4	18	7	256

高 3

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	2		2	1		1	2			8
b	2		11	2	1	1		1		18
c	5		24	7	6	1	2			45
d	1	1	9	3	2					16
e	3		11	2	4	1	1		1	23
f	6		21	9	5		1			42
g	2	1	8	3	1			1	1	17
h	5	2	13	2	4	1	1	1		29
i	2		3	4	1				1	11
x			1	1						2
y			2						1	3
	26	6	105	34	24	5	7	3	4	214

[29)\(30)

中 1

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	5		13	2				3	1	24
b	1		4	2	1					8
c			4		1	1			4	10
d	1		12	2	1	2		3	2	23
e	3	5	6	3		1		1		19
x	1		4			1			1	7
y	2	1	10	1	1			1	3	19
f	2		7	1	1			3	2	16
g	1	3	10	2	1	1			2	20
h			6	2						8
i	3		12	1		2		2		20
j	3	2	7	2		2		2	2	20
x	2		2							4
y	2	1	10	2	1			1	3	20
	26	12	107	20	7	10	0	16	20	218

中 2

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	5	4	18	3	3	2		2	1	38
b	1	4	3	2					1	11
c		1	5	2	1		1			10
d	3	1	6	1	1	1				13
e	2	1	8	1			2			14
x							1	1	1	3
y	3		9			1			2	15
f	5	5	12	1	1	1		1	2	28
g	1	3	10	2	2	1		1		20
h	2	2	4				1			9
i		1	10	2	1	1	2			17
j	3	1	7	3	1		1			16
x		1	3				1	1		6
y	3		7						2	12
	28	24	102	17	10	7	9	6	9	212

中 3

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	6	4	17	5	2	3	1			38
b	5		17	3	3	1				29
c	1		9	3	1	1	2			17
d			1	2	1		1	1		6
e	2	2	7	5	2	2				20
x				1						1
y	1		1						1	3
f	2		6	3	5		2			18
g	2		12	3	2	2				21
h	4		10	4		3	1			22
i	4	4	12	4	1		1	1		27
j	3	1	9	5	1	2				21
x				1						1
y									1	1
	30	11	101	39	18	14	8	2	2	225

[29)\(30)

高 1

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	6	1	30	8	8	2	6	7	4	72
b			6	2	2	1	1			12
c	1	1	7	2	3	2	1	1	1	19
d	3		2	2	1		1		1	10
e	3		4		2	1			3	13
x			3	1	1			1	1	7
y	3		4	2				3	5	17
f	5		9	6	6	1		4	3	34
g	3		17	3	5		3	2	2	35
h	3	1	12	4	3	3	3	1	2	32
i	6		6	4	1	2		1	1	21
j	3	1	5	1	1	1	2			14
x			3	1	1				3	8
y			5	1			1	1	5	13
	36	4	113	37	34	13	18	24	28	307

高 2

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	6	4	37	10	6	9		4	2	78
b			3	2	1	1		2		9
c	1		4	1		1	1	2		10
d	1		4	5	1	1				12
e	2		8	1						11
x			4	1	3					8
y			4		1				2	7
f		1	15	6	4	1		1		28
g	2	1	11	3	4	5		1	1	28
h	4	1	16	8	4	5	1	3	1	43
i	2		5	1				1		9
j	1		10	2		2			1	16
x			2					2		4
y		1	6		1				1	9
	19	8	129	40	25	25	2	16	8	272

高 3

	a	b	c	d	e	f	g	x	y	
a	9	3	27	11	10	2	2	1	1	66
b	1		8	3	2		1	1		16
c	1		10	3	1					15
d	1		3	1		1				6
e	1		3	2			1			7
x	1		5						1	7
y			1	2					1	4
f	4	2	12	7	5			1		31
g	2		20	1	2			1		26
h	4	2	12	7	4	1	2			32
i	1		7	2						10
j	3		3	5		2	1		1	15
x			2	1						3
y				1					2	3
	28	7	113	46	24	6	7	4	6	241

### 3. 分析と考察

#### 〔1〕 社会科学習の目的

社会科学習の本来のねらいは、いうまでもなく「民主的平和的な社会をつかっていくための考え方や態度を身につけるため」であるが、この学習目的を自分のものとしている生徒は、期待に反して少なく、3割弱にとどまっている。しかも、中学で3割5分をこえていたものが、高校では2割弱に低下している。「教養を深めるため」や「理解と認識を深めるため」など、知る段階にとどまり、社会の形成者たろうとする実践的態度から一步退いたタイプが多く、5割5分にも達している。実践的態度をどのように育てるかが次の段階の課題である。

社会科学習のねらいを「受験のため」とする生徒は、連絡進学制をとる本校中学生ではさすがに少ないが、高校生では1割5分をこえ、高3ではほぼ2割に達している。

なお、これらの傾向は前年の第1年度とくらべてみても大差はない。

#### 〔2〕 学習目的の達成度

〔1〕の目的が「全体としてほぼ達成されている」という回答は少なく、中学で1割5分、高校ではその半分ほどに低下する。「部分的にほぼ達成されている」は中学で5割5分、高校で7割近くに達していて、生徒の一定の満足感を読みとることはできる。しかし、「全体としてほとんど達成されていない」という教師への厳しい審判は中・高ともに2割もあり、本校社会科教師の反省材料である。

〔1〕と〔2〕をクロス集計してみると、中学では「民主的平和的な社会をつかっていくための考え方や態度を身につけるため」という目的が「部分的にほぼ達成されている」とする者がもっとも多く、高校では「教養を深めるため」という目的が「部分的にほぼ達成されている」とする者がもっとも多い。高3では、「全体としてほとんど達成されていない」目的でもっとも多いのは「受験のため」となっており、教師側の受験対策にかなりの不満を感じていることがわかる。

なお、この設問への回答では、学年進行による変化や中・高によるちがいがよりも学年によるちがいが目立ち、中2と高3で不満が多く、中3で満足が多い。前年度では、高1と高3で不満が多く、中1と中2で満足が多かった。

#### 〔3〕 社会科への注文

社会科の目的が「全体としてほぼ達成されているから現状のままよい」とする者は、中学で2割（ただし、〔2〕と同様に学年による差がはげしく、中3では3割をこえているが、中2では1割にも満たない）、高校で1割5分弱で、少ない。反対に、「教材や内容・教育技術をもっと工夫してほしい」が中・高ともに6割をこえている。とくに、中2と高3では7割をこえている。

前年度の生徒の注文とくらべてみると、「もっと工夫してほしい」が減り「現状のままでよい」がふえている学年、つまり、授業の改善を示しているともみられる学年は、中3と高1だけで、その他の学年は「もっと工夫してほしい」が1～2割もふえている。改善よりも後退が目立つとみることもできる。

しかし、本校では教師が毎年同じ学年を教えているとは限らない。目的が「達成されていない」不満や「工夫してほしい」注文は、どの教師がどの学年をもってきたかということと無関係とは考えられない。〔2〕と〔3〕の生徒の回答からいえることは、教師一人一人の謙虚で誠実な対応と教科内での率直な批判や援助が必要だということであろう。

#### 〔4〕 生徒の大切なもの

いま、生徒にとって大切なものは、健康・いのち、自由、友人・家族などである。平等や信仰を大切と感じている者はきわめて少なく、「教師」にたいしては790人中、たった6人が大切にしてくれているだけである。これらの傾向は中・高とも同様で、また、前年度の傾向とも変らない。生命や人間関係については他校と同様の回答傾向と推測される（次年度から他校との協同調査が必要）が、自由と平等にたいする態度のこのようなひらきは、本校生徒の出生・能力・予想される将来の地位などに規定された特徴といえよう。

#### 〔5〕 情熱の対象

生徒がとくに情熱を注いでいるものは、多い順に、趣味・娯楽、スポーツ、学校生活、友人との交際、塾・予備校であり、反対に、注ぐことの少ないものは学生・市民運動などの社会的実践である。

スポーツは学年進行とともに低下していき、逆に、塾・予備校が浮上していく。高3になって激減するのは、趣味・娯楽、友人との交際である。本校でも、受験は生徒を追い詰めている。

以上の傾向は前年度と大差がなく、受験地獄を克服する指導のむづかしさを示している。どのような指導がなされたかも問われるところである。

#### 〔6〕 現在の生き方

前年度、「現在どのような生き方がよいと考えていますか」と質問したところ、「自分のやりたい生活を楽しむ」生活享受型の回答が3割程度だったのにたいし、「よりよい社会の実現のために努力する」社会変革型の回答がそれを上まわっていた。これを生徒の建前回答と受けとめて、本年度は「現在どのような生き方をしていますか」と問い直してみた。結果は、生活享受型が5割をこえ、社会変革型が1割にも満たなくなった。他校の生徒と同様の傾向と推測される。

生活享受型は高2までは、学年進行にともなってふえる傾向がある。高3ではそれが減って、「社会とのかかわりをなるべく避け、ひたすら修業にはげむ」克己型がふえる。

### 〔7〕 将来の生き方

将来どのような生き方をしようと思うかと問えば、生活享受型は2割台に減り、逆に、社会変革型が5割に近づく。建前どおり生きることを妨げている社会にこそ問題があろう。中・高による差はなく、前年度とほぼ同様である。

### 〔8〕 日本の課題

生徒の6割5分がエネルギー・資源問題を日本の重要課題と受けとめている。この課題に、公害・環境破壊問題、他国との協調、安保・軍備・防衛問題が2～3割台で続き、社会福祉の課題がその後にきている。学年進行にともなう変化は顕著とはいえないが、安保・軍備・防衛問題で高学年ほどふえる傾向がみられ、逆に、公害・環境破壊問題や社会福祉問題では高校は中学より減っている。前年度とくらべて著しく変っている点は、エネルギー・資源問題の指摘が激増していることである。マスコミの強い影響が考えられる。

巨大企業の問題や労資の対立の問題を重要課題とみている生徒は、前年度と同様で、きわめてわずかである。

### 〔9〕 世界の課題

エネルギー・資源・食糧問題と核・軍拡問題を世界の重要課題とする者がきわめて多く、それぞれ7割台と5割台である。これらの課題に、2割台で、人口問題や紛争・戦争が続いている。学年進行にともなう顕著な変化はみられない。前年度とくらべると、やはり、エネルギー・資源・食糧問題の指摘の激増している点だけが目立つ。

### 〔10〕 国際正義の侵害にたいする日本の態度

他国間で人権侵害や軍事的圧迫など国際正義を乱すできごとが発生した場合、日本はどのような態度をとるべきかという設問である。6割台の生徒が国際機関を通じて問題解決に努力すべきだと考えている。民間レベルでの協力による問題解決まで考える生徒は2割5分にとどまっている。しかし、内政干渉になるから黙ってみているとする者よりも、内政干渉になっても問題解決に努力したいとする者のほうがはるかに多い。国家が問題解決に努めることは期待しているが、実践的姿勢を求められる市民運動とは距離をおいているわけである。学年進行にともなう明白な変化はみられない。前年度の設問にあった国名を、本年度ははずした。

### 〔11〕 対日紛争時の日本の態度

日本と他国との間で紛争が生じたらどういう手段をとるかという設問である。生徒の半数は国際機関を通ずる平和的解決をよしとしている。武力に訴えることを辞さないとする者はごくわずかである。市民的レベルにおける話し合いは1割5分ほどの生徒によって望まれているだけである。前問よりも自分とのかかわりが深くなるはずの問題であるが、市民的レベルでの対外的実践

活動への気持ちはむしろ後退している。

この設問への回答傾向は前年度とかわらない。

#### 〔12〕 ①日本は平和

日本が平和であるとみている者は、「まったく賛成」と「ほぼ賛成」とをあわせれば、7割以上になる。「まったく」平和とみる者は学年進行とともにふえる。前年度と同様の傾向を示している。

#### ②世界は平和か

日本の場合とは対照的に、世界は平和でないとする者が多く、5割ほどいる。3割近くの者は「どちらともいえない」とみている。学年進行にともなう変化はみられず、前年度と同じ傾向を示している。

#### ③構造的暴力

社会に不平等や不正が存在するかぎり真の平和とはいえない（いわゆる構造的暴力）と考える者は7割5分もいる。日本を平和とみる者が7割台であったこととあわせ考えてみれば、生徒の平和概念が混乱しているか、生徒の日本認識が甘いか、いずれかであろう。後の政治に関する設問で、多くの生徒が日本における不正の存在を指摘しているので、概念のほうが問題である。日本の場合では、平和ということばは戦争がないという意味で使われていると考えられる。しかし、不平等や不正が存在するかぎり真の平和とはいえないという考えかたは、学年進行とともに減少する。上級学年ほど2つの考えかたの混乱が減り、戦争がないことが平和という考えかたに整理されていく傾向がみられる。しかし、この傾向を社会認識の発展とみることはできない。

③と①、③と②をクロス集計してみると、日本と世界が平和でないとした者は、不平等や不正を非平和であるとみていることがわかる。しかし、学年進行にともなう増大傾向はみられない。前年度の傾向と同様である。

#### ④正義の戦争はやむをえないか

正義と平和を守るためには戦争もやむをえない時があるとする者は2割台で、戦争を否定するものは生徒の半数である。平和主義の立場をとる者は多いが、半数しかいない点は問題である。また、前年度、学年進行にともなってみられた戦争否定の増大傾向は、本年度ではなくなっている。

#### ⑤軍事力は必要か、戦争に協力するか

軍事力の必要と戦争協力を肯定する者は少なく、1割台である。7割ほどの生徒は軍事力の不必要と戦争への非協力が正しい立場だと考えている。小学校以来の、憲法や教育基本法に基づく社会科教育の成果とも考えられるが、学年進行にともなう変化はみられない。前年度と変わらない傾向をみせている。

#### ⑥戦争防止は国連への協力か

7割をこす生徒が、戦争を防ぐには国連に協力すべきだと考えているが、この考えは学年進行

にもなってやや減少している。前年度も同様の傾向がみられた。国連への期待に反するできごとを知るにつれて、国連への協力のむなしさを感じるのではないと推測される。

#### ⑦戦争の原因をなくすために国際交流を

9割に近い生徒が、世界の人びととの日常的な交流を心がけるべきだとしている。前年度では学年による傾向的な変化がみられなかったが、本年度では上級学年で、この考え方がやや減少している。

#### ⑧“平和共存”は連帯による平和か

今日の大国間の平和共存は、対立者をひきはなすことによる平和であって、真の協力に基づく“連帯による平和”ではないとみる者は7割に近い。上級学年ほどこの認識がふえる傾向を示している。前年度と同様の傾向である。このような事実認識については、学年進行とともに深まっていく傾向が読みとれる。

#### ⑨非核戦争ならやむをえないか

核兵器を使わなければ戦争をすることもやむをえないとする者は1割ほどで、逆に、この考え方を否定する者は8割近い。学年進行にともなう明白な変化はない。前年度と同様である。

④で「正義と平和を守るためには戦争もやむをえない」と答えた者より、この設問でやむをえないと答えた者のほうが少ない。「正義と平和を守るために」と、この設問の「場合によっては」とでは、前者のほうが重みをもつとみられる。また、④の設問については、核兵器の使用を頭にいられていなかった生徒があるとも考えられる。

#### ⑩原水禁運動の効果は

原水爆禁止のための運動は大いに効果をあげてきたとみる生徒は少なく、2割に満たない。このみかたは、学年進行とともに減っていく。前年度と同様の傾向である。原水禁運動へのこのような評価の低さは、一面では、「どちらともいえない」が3割もあることと考えあわせて、本校社会科教育の問題と考えられるが、他面では、マスコミの報道姿勢や分裂問題などの要因も考えられる。

#### ⑪平和利用のための核実験を認めるか

核実験は、平和利用のためならば、認められるべきであるとする者は4割をこえているが、認められるべきではないとする者も3割をこえていて、考え方は分散している。学年進行にともなう変化はみられず、前年度と同様である。

#### ⑫憲法の平和条項は日本の誇り

憲法9条の戦力不保持・戦争放棄を日本の誇りと考えている生徒は6割に近い。しかし、2割に達する生徒がこの考え方を否定しており、どちらともいえないとする者も2割いる。学年進行にともなう変化はなく、前年度と同じ傾向である。

⑤とクロス集計をしてみると、軍事力の不保持・戦争非協力の立場をとる者は、ほとんど平和条項に誇りをもっているといえる。しかし、9条を誇りとはしない生徒が4割をこえていることを見ずぐすわけにはいかない。教師による平和主義の原則論的な教育よりも、事実上の戦力の保

持や紛争たえまない国際情勢が、生徒の考えを強く規定しているとみられる。

#### 〔13〕 課題解決へのかかわりかたは

〔8〕と〔9〕で問題にした日本や世界の課題を解決していくために、自分としてはどうかかわるのがよいと思うか。この問いにたいして、現在の自分でもできるだけのことを努力するという生徒は、学年進捗とともにややふえはするが、それでも全体で1割にしかならない。7割もの生徒が、「問題のありかをできるだけ正確に認識し、大人になってから積極的に問題解決ができるような能力と態度を養っておく」と答えている。将来の態度としては社会科教育のねらいと合致しているが、現在の態度としては待機主義的性格をまぬかれず、実践的態度の弱さを示している。

〔6〕の現在の生き方とクロス集計してみると、生活享受型で「大人になってから」というタイプがきわめて多く、社会変革型で「現在、努力する」という実践的タイプはきわめて少ない。

前年度の傾向とくらべて大きな変化はない。

こうした傾向が確認できたので、次年度以降、実践的態度を育成するための授業実践とカリキュラムづくりをすすめることが必要となった。

#### 〔14〕 歴史認識

具体的な歴史知識ではなく、その知識を通してどのような歴史認識が形成されているかを問うたもの。以下の小問にみるような、たとえば、「歴史の目的」とか「歴史における偶然性」といった概念の諸問題は、授業において、系統的には取り扱われておらず、むしろそれはある意味で当然のことである。我々は、授業の展開につれて、折にふれ、具体的史実との関連においてこれらの命題を考えさせるに止まっているのであるのが、歴史学習者の側では、しかし絶えず史実と命題との相互関連を考え続けることが要求される。このように、史実を通して命題を正しく理解すこと、これをここでは仮りに「歴史認識」と名づけている。

この設問と回答に関しての特色は次の通りである。第1に、総体的に見て高2の段階でより正しい歴史認識が急速に高まっていること。このことは一般的な認識能力が飛躍的に高まる時期であるという発達段階の観点からも説明できるが、そのような発達段階の特色をもふまえて、高2の歴史教育において、意識的にこれら諸命題に関する考察を行っていることにもよるであろう。第2は、行為もしくは実践に係わる他の設問においてしばしば見られた、高1の生徒の好ましい回答率の相対的な低さは、このような抽象性の高い設問の場合にはあらわれず、認識能力の発達に応じた回答率を示している点である。論理に係わる限り、本校生徒が総体として高い能力を有することの、ひとつのあらわれであろう。

第3は、本設問のむしろ欠点とされるべきものであろうが、各小問の文章表現の問題——各命題を説明なしにそのままに表現したことによる、難解さの問題である。この点については、すでに内外からいくつかの批判が出されており、たしかに改善すべきものと考えられる。しかし、結果を

みる限り、表現の難解性とその回答への影響との関連は、中1～高1において、心配されるほど大きなものではなかったと判断してよいのではなかろうか。もちろん回答者への配慮という意味において、より平易な表現とより親切な問題設定のしかたは、我々に残された課題として考慮すべきものではあろう。

各小問についての大きかな傾向についてみてみよう。

①「歴史の目的」＜a + b＞（命題を肯定する回答率）は、中3・高2・高3において約75%が、望ましい回答を示している。「行為としての歴史」という命題に係わるものである故に、高1の＜a + b＞への回答率は、この3学年に比して10%以上も落ちこんでいるのが目立つ。

②「歴史における偶然性と個人の役割」＜a + b＞の回答率は、ほぼ学年進行に伴ない上昇し、中3～高3においては80%前後を示している。

③「歴史の普遍性と特殊性」——「歴史主義」に関するもの。次の④と並び、難しい設問であるが、＜c＞（命題に対して中立の回答率）の回答がほぼ学年進行につれ増大している点は好ましい。その比率は中2～高3において30%台であるが、その比率をより高めると同時に、より正しい命題は何かを理解させることが我々にとっての重要な課題となろう。

④「歴史における発展性と連続性」——「歴史主義」に関するもの。＜c＞の回答率は必ずしも学年進行を示さないが、中2～高3において30%前後である。③と同様な分析が可能である。

⑤「文化の同値性」＜a + b＞は中3・高2において80%を越え、中1を含めた他学年においても20%台の高率を示している。将来の課題としては、各文化圏の具体的な＜文化価値＞に対する認識と、この命題との相関性を調べてみることであろう。

⑥「文化圏の発展要因」＜a + b＞が、中3～高3において80%台から90%に達しているが、設問文は捨象された部分が多く、十分な理解の上での高率とは考えにくい。

⑦「時代区分の方法と根拠」高2・高3において＜a + b＞が80%台の高率を示すが、これは明らかに授業の成果である。

⑧「西欧中心史観」＜d + e＞（命題を否定する回答率）は、高2・高3において60%台、他学年においてはおおむね30%台である。これも授業の成果ではあるが、高2・高3においても、＜c＞の回答率を含めるならば、なお3分の1の生徒は「西欧中心史観」を否定し得ていないところに問題が残される。

#### 〔15〕 諸文化圏への関心度（5分肢選択）

文化圏の設定と比較文化の試みは、古来多くの歴史家・思想家の関心のまとであった。文化圏設定の基準は今日なお確立していないが、本問に設定した16の文化圏は伊東俊太郎氏の試論によるものである。

各学年を通じておおむね50%以上の生徒の関心を得ている文化圏は日本と中国で、40～60%台であるが学年進行と共に関心度が低くなるものがギリシア・ローマ、30～50%台が西欧、50%台から20%へと学年進行と共に急速に低下していくものがエジプトである。これが関心度の高い上

位5つの文化圏であるが、この5文化圏のそれぞれの関心度の推移は、さまざまな条件を併せて考えてみる時、むしろ当然の傾向を示しているといえよう。

関心度の低いものは、まず各学年とも5%台以下のものにシリアとミノアがあり、次いで、アフリカ、メソアメリカ、ビザンツである。後者の3文化圏については、高2、高3においてはほぼ10%台へと関心は急速に高まっている。

また学年毎にみても、高2・高3においては、特定文化圏への関心の集中は相対的に薄れ、関心度10%以下の文化圏は高2においては4つ、高3においては2つのみである。教科としての世界史がこれらの学年に登場したことの端的な反映でもあろう。

#### 〔16〕 20世紀後半の世界の歴史の特色（3分枝選択）

20の選択肢の中には、20世紀前半と19世紀の特色を記したもの、また、このような時代区分が明瞭でないものなどが含まれている。本問は認識の傾向を調査するもので、必ずしも正答を要求するものではないが、予想されたこととはいえ、低学年において誤答部分が目立った。

「20世紀後半」の特色として客観的にも正しいと考えられる回答の中、上位のものは、まず「核問題」で、各学年とも40～50%台を示している。次いで10～30%台を示したのが「宇宙開発競争」であるが、おおむね学年進行に伴ない低下している。学年によりムラがあるが「国際社会化」・「人権思想の普及」・「南北問題」はおおむね10%台を示している。「管理社会化」については、中1の0.8%から高3の16.2%へと、ほぼ学年進行につれ増加し、その数字の差異の意味するところは興味深い。

より多くの回答率を期待したかったものは「新植民主義」・「グローバリズム」であるが、高学年においても10%を越えることはなかった。

歴史事実の誤認という点では「自由主義・国民主義」がもっとも著るしく、中1は30%台を示した。「社会主義国家の成立」はむしろ中3～高3において20%～40%台の高い誤答率を示している。その他、世界観・歴史観の相異によって時代区分が異なってくる部分も含めて、知識と認識との関連を再考させる設問ではあった。

#### 〔17〕 災害の要因は

日本の自然現象に起因する災害の理由を選択させることで、災害を大きくしている社会的側面を重視しているかどうかみようとすることがこの設問のねらいである。

選択の多かったのは、地盤・気象、防災軽視、技術、人口・国土、大都市で、他の回答は少なかった。地盤や気象は自然現象の特色の概括であるから、選択が集中するのは当然として、むしろ4つまでの選択に、地盤と気象を含めなかった者の回答をパターン化する必要があった。

この問いで期待した選択は防災軽視であるが、これは、中3以上の学年で高率を示している。技術は災害克服の可能性をもつが、人口や国土という選択は、宿命的な受けとめ方といわざるをえない。

〔18〕・〔19〕 アメリカ合衆国とソ連邦の発展理由

2つの設問は、合衆国とソ連の国家としての発展の理由を、それぞれ10の選択肢の中から、4つまで選ばせることで、国家の発展についての見方、社会体制や民族性との関わり、両国のちがいをみようとするものである。

合衆国では、国土・資源、巨大な資本は、各学年で高率の選択があった。巨大な資本はとくに上級学年で選択が多く、外国の権益は、中3以外の学年では、かなり低い選択率で、このあたりに、一昔以前の生徒との相異があるのではなかろうか。

ソ連では、国土・資源、社会体制、計画経済などの選択が多かったが、学年別にこれをみると、社会体制は中2から高2までが高く、とくに中3は7割近い生徒が選択している。これにたいし、高3と中1で社会体制を選択した者の比率は中3の半分ほどであったことは、興味深い現象である。計画経済は中3から高3までが高い選択率を示しているが、社会体制と同様に中3がもっとも高率で、高3では率が低くなっている。

合衆国とソ連の選択肢は、社会体制や民族性を考慮に入れて対応する関係でつくられているが、国土・資源や科学技術では、合衆国がソ連より高率で選択され、軍事力や政治はソ連が合衆国より高率で選択されている。

〔20〕 “兎小屋の働き虫” になった理由

日本人の貧弱な住宅とよく働くらしぶりの原因を4つまで選択させることで、国土の狭さ・資源・人口などに原因を求める考えと、社会や政治に原因を求める考えを調べるのがねらいである。しかし、らしぶりの2つの要素、“住宅”と“よく働く”こととの関連が選択肢の中にないなど、問いかたは再考を要する。

結果としては、国土、人口、国民性、政策の選択は各学年で多く、権利意識の弱さの指摘は中3のみ非常に高率になっている。

〔21〕 日米貿易はどうあるべきか

貿易に関する考えを問うたわけであるが、選択肢の中に、立場の絡んだものとあり方をのべたものなどが雑然と混在していて、問題そのものの再検討が必要である。

「日本の農家の経営をおびやかさない範囲で輸入をふやす必要がある」・「輸入に制限をつければ工業製品の輸出に制限をつけられる」・「安い農産物の輸入によって日本の生産も合理化され国際競争力がつく」などに選択が集まり、「狭い国土を高度に利用するために農地を縮小したほうがよい」などの極端な意見は少ない。

〔22〕・〔23〕 どんな所に住みたいか

将来定住したい所と、その地域の区分を選択させる問いである。

東京と神奈川の選択が多かったのは、通学区域と一致し、現状に満足しているとみられるが、

その割合が、高学年ほど高いことは注目される。

外国は、東京につぐ高い選択率であるが、そのほとんどは先進資本主義国であること、高学年、とくに高3で低率であることは、上級学年ほど現実的ということのあらわれといえよう。

なお、国籍・民族などについての考えも調べる必要があった。定住地の区分では、大都市やその郊外が高率で、ここでも現状満足という傾向が判然としている。

#### 〔24〕 有事に人権を制約してよいか

国を守るために言論の自由などが制約されるのはやむをえないとする生徒は1割をこえている程度で、少ない。反対に、有事を口実にして自由や権利を制約することなどやってはならないと考える者は6割5分に達している。人権意識は高いとみることができる。それは上級学年ほど高まる傾向をみせている。前年度とほぼ同様の傾向である。

#### 〔25〕 大企業の独占価格を認めるか

独占価格を弁護するものは1割5分ほどで、少ない。独占価格を抑えるためには、企業の秘密を制限、原価を公開させるところまでいくべきだとする生徒は、4割をこえている。この考え方は、学年によるちがいが顕著（高2と中3が非常に高い）ではあるが、上級学年ほどふえていく。独占禁止法で値だんのつり上げを取り締ってほしいとする者も2割をこえている。上の両方をあわせれば、7割の生徒が、規制すべきだと考えていることになる。経済民主主義の観点が多くの子に受けいれられているとみることができる。企業秘密の制限や原価の公開は、現在の独占禁止法よりも、はるかに厳しい大企業規制をもたらすものであり、この考え方が上級学年でふえている点に、経済民主主義の観点の深まりをみてとることができる。

前年度とくらべて、大きな変化はない。

〔24〕とクロス集計をして、人権意識の高さと原価公開による規制という経済民主主義の観点との関係を見ると、両者の一致する生徒は学年進行とともにふえていく傾向をみせている。

#### 〔26〕 間接税の全面化（一般消費税）を認めるか

間接税の全面化をすすめてもよい、ないし、やむをえないとする者は、2割に満たず、上級学年で減少する。逆に、税金は高額所得者や大企業にもっと負担させるべきだとする者は6割をこえていて、上級学年ほどふえる傾向をみせている。この設問からも、経済民主主義の観点、学年進行とともにひろがっていくことがいえる。

なお、間接税ほど負担が公平だとする見方は、中1の2割5分から高3の5分にまで低下していく。所得の低い人ほど間接税負担率が高くなるという事実認識は、学年進行とともにひろがっていることになる。前年度と同様の傾向を示している。

#### 〔27〕 なににたいする政治不信か

前年度は、選挙区による一票の重みの不公平さを提示して、結果的に、学年進行による政治不信のひろがり傾向をつかんだが、本年度は、政治不信の量的把握ではなく、内容把握を試みた。

政治不信を感じていない生徒はきわめてわずかで、多くの者は不信感をもっている。政治不信の対象として生徒があげるものは分散しているが、汚職をやったような議員を再当選させてしまう人たちや、ロッキード事件などにみられるように政治が私腹をこやすために行われていることへの不信が、それぞれ3割ほどで、もっとも多い。現象的に見えやすい政治悪や悪政を許す大人たちへの不信感が強いわけである。再当選させてしまう人・政治に諦めを感じている人・民主主義をになり能力を身につけていない人を指摘する生徒を、単純に合計してみると、為政者への不信感よりもむしろ大人たちへの不信感のほうが強いといえる。

国民を犠牲にした大企業優先の政治への批判や、無力にみえる革新政党への期待はずれは、いずれも少なくとも1割台にすぎないが、上級学年ほどふえる傾向にある。民主主義の制度そのものへの不信感は、上級学年ほど減っている。自分たちの行動で悪政を変えられないことにもどかしさを感じ、無力感をもっている生徒は、どの学年にも1割あまりいる。

#### [28] 日本を動かしている力は

この設問は朝日新聞社の世論調査をそのままの形で出したものである。

いまの日本を実際に動かしている力として、多くの生徒が指摘するものは財界で、4割5分である。次いで政党とする者2割、官僚とする者1割5分である。政党を指摘する者は上級学年で減り、財界の支配力を指摘する者は中3以上で多い。選挙・世論・大衆運動などの「建前的な見方」（朝日新聞の指摘）はきわめて少なく、現実的な見方が上級学年ほどひろがっている。

朝日新聞が国民にたいして行った調査結果とくらべてみると、本校生徒は財界や官僚をあげる現実的な見方ははるかに多く、「建前的な見方」がずっと少ない。

[27] とのクロス集計でみると、日本を動かす財界がロッキード事件のような私腹をこやす政治と結びついていることへの不信感や、大企業を優先して国民を犠牲にする政治と結びついていることへの不信感は、学年進行とともにやや高まる傾向をみせている。しかし、国民ならぬ財界が日本を動かしている事実を知っていても、そのことを批判的にとらえている者は、全体の中では少ない。

#### [29] マスコミの一方的報道とそれへの対処

マスコミ報道が一方的ではなく、公正中立だとする者は1割程度であり、学年進行とともに少なくなっていく。

一方的だとみている生徒に、なにが一方的なのかと問えば、大衆の中にある低俗な気持ちに迎合する傾向だとする者が4割ほどいる。この見方は学年進行にもなって激増していく。マスコミの低俗性にたいする批判の目は育っているわけである。しかし、「資本主義体制の維持に有利な

傾向をもつ」・「ときの政府にへつらう傾向がある」という見方は、あわせてみても2割程度であり、少ない。学年進行にともなう変化はみられないが、中3だけが4割に近づいている。多くの生徒の傾向としては、資本制社会のマスコミがもたざるをえない問題点をみすごし、世論操作の危険性にも無自覚であることがわかる。低俗性の問題に目を奪われているといえる。

一方的報道への対処のしかたを、〔29〕の前半と後半をクロスさせた結果でみると、低俗性にはたいし、「市民的な抵抗が必要」・「改善させることは無理」・「自分だけは大丈夫」という反応タイプがもっとも多く、ちょうど1/3ずつに分散している。抵抗派、諦め派、エリート意識に基づく心構え派のみつどもえ状態である。体制維持傾向や政府迎合傾向への市民的抵抗という選択はきわめてわずかであり、学年進行にともなう増大もみられない。

〔28〕では、財界の日本支配という見方が顕著だったが、この設問では、財界のマスコミ支配の認識にまで及んでいないことがわかる。生徒の財界認識を典型化してみると、独占価格にたいする消費者の立場や、独占利潤にたいする納税者の視点から、財界の経済支配を許せないとする。次に、財界が日本の政治を支配しているのを事業として認めるが、とくに国民を犠牲にしていることもないとみる。そして、マスコミの低俗性に財界はかかわりをもたず、財界のイデオロギー支配などは思ってもみないというわけである。

#### 〔30〕 ファシズムにどうかかわるか

ファシズムの再来をありえないとする者は1割ほどで、学年による変化もみられない。また、ファシズムが庶民にとって大した意味をもたないという見方も、ほんのわずかである。

ファシズムを肯定する立場、「いま必要なことは優れた者による指導」や「社会主義よりまだまし」は、あわせてみても1割に満たない。学年進行にともなう増大傾向もみられない。

ファシズムへのかかわり方でもっとも多い選択は「抵抗する人たちになんらかの協力をした」である。これは、学年による傾向的変化をみせてはいないが、4割をこえている。

上級学年ほどふえるのは、「抵抗するのは勇敢だと思うが、自分を犠牲にするような危険な行動はとれない」という選択肢である。中1の1割弱から高3の2割にふえている。この傾向は、高学年ほどファシズムをより深刻に、現実的に受けとめているためとみられる。この観点から、上の2つをあわせてみると、ファシズムを悪と断じている者は6割に達する。そして、高学年でふえている。

有事の人権制約を否とした認識と、ファシズム批判の認識は、ともに6割ほどで変わらないが、ファシズムにたいする実践的態度を問う場合には、慎重にならざるをえないために、人権意識の高さが凝縮されてあらわれる。

## 4. ま と め

(1) 前年度と本年度の調査によって、学年進行にともなう社会認識の深まりを確認することは困難である。歴史認識、地理的認識、人権意識、経済民主主義の観点などにおいて、社会認識の

一定の部分的な深まりを読みとることはできたが、期待する水準からみればまだ不十分である。さらに、平和主義、政治的民主主義、文化などでは、社会認識の深まりを確認するにいたっていない。

学年進行とともに、事実認識が深まることは確かめられるが、考え方の面からみた社会認識が  
発展しているとはいいいがたい。

(2) 本校社会科では、実践的態度を知識・理解とともに、社会認識の一側面とみなしているが、この面からみても、学年進行にともなう発展を確認することができなかった。

(3) 両側面からみた社会認識が、なぜ、発展していると確認できないのか。また、学年の個性がかなり強く、とくに中3と高2とで、社会認識の相対的な高さをみせているが、なぜなのか。こうした問題は、授業実践ときりはなしたアンケート調査だけで解くことはむづかしい。

(4) 次年度以降、社会認識向上のための授業実践と実践研究が必要である。また、調査結果を取り入れたカリキュラムが必要である。

(5) 次年度は、社会認識調査を続けると同時に、社会認識育成のためのカリキュラムを、「現代社会」を中心にして検討していく必要がある。

(6) 第1年度・第2年度は本校の生徒だけを調査の対象としたが、次年度以降、他校との協同調査が必要である。